

一般社団法人映像情報メディア学会
第70回定時社員総会資料

2024年5月31日(金)14時～

於 機械振興会館 + オンライン

一般社団法人映像情報メディア学会
第70回定時社員総会式次第

開催日時：2024年5月31日（金）14：00～16：00（予定）

会場：機械振興会館6階6D-1, 2, 3会議室 + オンライン

議長：児玉圭司会長 司会：山下誉行総務理事

式次第：

- ① 会長挨拶（児玉圭司会長）
- ② 開会の辞（苗村 健副会長）
- ③ 2023年度事業報告審議（山下誉行総務理事）
- ④ 2023年度決算報告審議（上原伸一会計理事）
- ⑤ 2023年度監査結果報告（池田哲臣監事）
- ⑥ 2024年度役員を選任（境田慎一副会長）
- ⑦ 2024年度事業計画報告（樋口晴彦総務理事）
- ⑧ 2024年度予算計画報告（坂東幸浩会計理事）
- ⑨ 選奨選考結果（山下誉行総務理事）
- ⑩ 賞状賞牌贈呈
- ⑪ 受賞者代表挨拶
- ⑫ フェロー認定（樋口晴彦総務理事）
- ⑬ フェロー認定証の贈呈
- ⑭ 退任役員代表挨拶（児玉圭司前会長）
- ⑮ 退任役員への謝辞（境田慎一副会長）

====休憩、この間に臨時理事会開催====

（総会再開） 司会：樋口晴彦総務理事

- ⑯ 2024年度役員担務の報告（境田慎一副会長）
- ⑰ 新会長挨拶（鈴木教洋新会長）
- ⑱ 閉会の辞（森本雅和副会長）

以上

2023年度事業報告

1. 総括（担当：山下総務担当理事）

1946年に高柳健次郎委員長のもと「テレビジョン同好会」として発足した本会は、1955年の社団法人化、1996年の「映像情報メディア学会」への改称を経て、映像情報メディアに関する学理ならびに技術の進歩向上、普及をはかることを目的に活動を行っています。会員間の交流はもとより、専門家集団として社会に貢献しております。映像情報メディアは、メディアの中核を担うものとして、映像に関わる機器、システム、方式等、広範な領域の学問、技術を含む総合技術であり、また近年、コンテンツに関する技術も取り込み、活動範囲を一層拡大しています。具体的には、機関誌、論文集の刊行、年次大会や冬季大会、研究会、講演会等のさまざまな事業活動を行っています。これらの事業活動には、理事会のほか、専門の分野を担当する委員会を設置して、その円滑な運営に努めてきました。

本年度は、2023年5月の総会において、下記の基本施策を設定して学会活動を進めてきました。

- (1) 学会の活性化
- (2) 新分野の開拓
- (3) 広報活動と会員サービスの拡充

2023年度の終了を迎え、上記の各計画項目の達成状況は以下のようになりました。

<2023年度事業計画と達成状況>

(1) 学会の活性化

2023年度の学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとして目的ごとに設置した11の委員会を実行部隊とし、理事会との情報共有を密に図りながら活動を進めていくというものでした。各委員会が活動の中心となり、それぞれ取り纏めたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にしながら、活発な学会活動と課題解決に取り組みました。

理事会に関しては、全理事および監事が出席する定例理事会を8回開催しました。今年度は全8回のうち、2回を対面とオンラインのハイブリッド開催といたしました。各理事の負担を緩和しつつ重要案件を集中的に審議するとともに、支部長や代表代議員の参加も得ることができ、理事、支部、代議員一体となった運営を進めることができました。

2023年度の学会予算としては、研究会等のハイブリッド開催が増えることを予想し、赤字予算(約802万円)の編成でスタートしました。技術報告の電子化など支出の抑制を図るとともに、会議費支出減、各支部からの戻入等による経常費用の減がある一方、テストチャート頒布事業の不振、技報アーカイブ収入減により最終的に772万円の赤字となりました。

学会活性化の最重要課題である会員増のため、昨年度改定されたアカデミックパートナー制度を最大限活用して、特に若手研究者の会員増に取り組みました。同制度は、大学や高等専門学校等の研究室単位で会員登録できる制度です。アカデミックパートナー登録研究室は一時26研究室、学生会員の約7割が本登録によるものとなりました。3月末には23研究室に落ち着きましたが、今後も訴求を続けていくべき施策の一つとなっています。

学会の本部と地方支部の連携強化のための施策として、2023年度も各支部長または支部長代理に理事会へ参加して頂き、理事会での動きを把握して頂くとともに、年次大会の際の支部長会議や、支部大会において本部役員との直接対話を進め、意識の共有を図りました。特に2020年以降の開催となった支部長会議においては、本部と地方支部の課題の共有に加え、効率的な運営に向けたざっくばらんな意見交換を対面で行いました。

本会ならではの取り組みであるテストチャートの頒布事業については、三次元マルチチャンネル音響標準音源 B シリーズとして、オブジェクトベース音響システムによる放送規格が国際的に標準化されたことにより、オブジェクトベース音響制作環境に適した標準音源の制作を開始しました。2022年4月より新たに頒布開始した C シリーズ第2版は、既に第1版購入者に割引頒布の周知を行いましたが、いまだ引き合いがなく、周知等の更なる対策が必要です。

(2) 新分野の開拓

新分野開拓の一環として、国内外の関連学会との連携強化をはかりました。特に韓国放送メディア学会(KIBME:Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)との協力体制を構築し、本年年次大会にて「Invited Session of KIBME」と題したセッションを企画してKIBMEから2件の講演を実施しました。

また、5月に今後の両学会の連携方法、協力体制について意見交換を実施しました。双方の連携を図る施策について継続的に検討を深めることが合意され、本会では国際会議連携委員会の所掌として作業を進めています。

また、本学会がSID(Society for Information Display)と共催するIDW'23(International Display Workshop)へも組織委員として参画しました。同ワークショップは2023年12月6日～8日に新潟市朱鷺メッセにて開催され、例年通り盛況でした。

年次大会の企画セッションにおいては、一般的注目度が高い「放送番組制作におけるCO₂削減への取り組み」、「画像生成AIをめぐる法的・倫理的課題」についてパネルディスカッションも実施しました。学会誌においても、「ローカル5G」「トラストという観点からのブロックチェーン技術の応用」など、従来の映像情報メディアの枠にとらわれない、今後の広い活用が見込まれる技術に関して特集を組みました。和文論文誌においても、各研究委員会との連携強化のもと、特集号の充実・新テーマの企画に加えました。

英文論文誌MTAは、取得を目指してきたImpact Factorが2023年6月に付与されました。論文誌としての一定のステータスが得られたことから、今後の投稿数増加が期待されます。

(3) 広報活動と会員サービスの拡充

各種SNSや学会ホームページ(本部・支部)、メーリングリストを通じた情報発信は、有効な広報手段として2023年度も積極的に活用しました。業界紙への広告出稿等、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開しました。また、映像情報メディア学会の情報発信力を強化させるため、ホームページの改修検討に着手し、現在のホームページの問題点や課題の抽出をおこなうとともに、追加すべき機能の調査をおこないました。レイアウト変更など一部の軽微な項目については改修を実施しました。

また図書の企画・刊行活動の一環として、学会誌掲載の連載講座や連載シリーズについて学会ホームページでの公開を行いました。「知っておきたいキーワード」「年報」「きりり。中のヒト」「ベンチャービジネス」は、ホームページでの全文公開を継続しました。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行っています。

素晴らしい成果を上げている会員の方々に対し、奨励・表彰を行いました。具体的には、丹羽高柳賞(功績賞1名、業績賞1件、論文賞3編)、鈴木記念奨励賞(6名)、技術振興賞(進歩開発賞[現場運用部門]3件、進歩開発賞[研究開発部門]2件)、コンテンツ技術賞2件)、映像情報メディア未来賞(2件)、優秀研究発表賞(13名)の各賞を贈呈しました。また、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された会員の中から、本会フェローを3名選定しました。さらに、長年にわたり在会いただいた会員の方の会費を無料とする「ライフメンバー制度」については、ライフメンバー自身による講演会、セミナー、見学会などの自主的な活動を可能とする組織化を含めて引き続き検討することといたしました。

協賛団体と会員各位のご理解・ご協力のもと、以上の施策を通じて、2023年度も計画されていた事業を概ね遂行することができました。引き続き、変化し続ける社会情勢に対応しつつ、映像情報メディアに関する技術分野の発展に貢献してまいります。会員の皆様のご協力をお願いする次第です。

2. アクションプランの設定内容と達成状況

2023年度に設置された11の委員会のアクションプランの設定内容と達成状況を以下に示します。

① 広報委員会(担当:和泉田企画担当理事)

広報活動として、年次大会、冬季大会、研究会、支部主催セミナー、その他の学会事業活動の告知をホームページ、SNS「Facebook, X(旧Twitter)」,メールマガジン(年間146通発行)により適宜情報発信を行いました。

また、映像情報メディア学会の情報発信力を強化させるため、ホームページの改修検討に着手し、現在のホームページの問題点や課題の抽出をおこなうとともに、追加すべき機能の調査をおこないました。今回取り組むべき課題は、今後の映像情報メディア学会の運営や会員管理、活性化に大きく貢献するものとなるため、次会期に渡って入念に要求仕様の検討や準備を行います。改修内容の精査や要求仕様の設定、改修業者の選定や実施、改修後の持続的な品質維持管理の検討等について、これらを取り扱うワーキンググループを設置して作業を加速させます。なお、レイアウト変更など一部の軽微な項目については、今会期中に改修を実施しました。

② 年次・冬季大会実行委員会(担当:笹出調査担当理事)

2023 年映像情報メディア学会年次大会は、実行委員会（委員長 苗村健）において 8 月 30 日（水）～9 月 1 日（金）の 3 日間の日程で、東京理科大学葛飾キャンパスにおける会場+zoom オンラインのハイブリッド形式にて開催されました。年次大会実行委員会としては、準備のための委員会を 2 回、振り返りの委員会を 1 回実施しました。一般講演 15 部門 74 件、招待講演 1 件、フォロー記念公演 1 件および企画セッション 5 部門 19 件の発表がありました。企画セッションにおいては、「放送番組制作における CO₂ 削減への取り組み」、「画像生成 AI をめぐる法的・倫理的課題」ではパネルディスカッションも行われました。特にこれらのテーマは一般的注目度が高く、新鮮な切り口で考察が深まったという声が多数聞かれました。加えて、今年度は、韓国 KIBME の招待セッションも開催しました。また、リアル会場では支部長会議を年次大会と同時に開催することができました。参加者数は 245 名でした。

2023 年映像情報メディア学会冬季大会は、実行委員会（委員長 境田慎一）において 12 月 26 日（火）、12 月 27 日（水）の 2 日間の日程で、法政大学 市ヶ谷キャンパスとオンライン(zoom) のハイブリッド形式にて開催されました。実行委員会としては、年次大会同様、準備のための委員会を 2 回、振り返りの委員会を 1 回実施しています。一般公演 12 部門 93 件、企画セッション 6 部門、31 の招待講演の発表がありました。年次大会に引き続き、特に企画セッションでは多くの魅力的な講演を行うことができました。参加者数は 288 名でした。

③ 編集委員会（担当：河合編集担当理事）

今期は企画委員会を全 7 回開催し、そのうち 3 回については年次企画委員会をあわせて開催しました。委員会では、学会誌を通じた情報提供と学会員・維持会員社の満足度の向上に向けて、さまざまな観点から学会誌の在り方や企画内容について議論を交わしました。また、アクションプランに掲げた学会誌の電子化についても検討を進めました。

学会誌が学会員と学会を結ぶ重要な役割を担っていることを鑑み、会誌モニターや支部、研究委員会、編集幹事などからの意見や、世の中で話題となっているトピックを企画内容に反映し、学会員の多様なニーズに応えられるように心がけました。また、利便性を高めるため Web ページから会誌をダウンロードして閲覧できるようにするとともに、メールマガジンによる学会誌目次の配信等を通じて、学会員に対してタイムリーでコンスタントな情報提供を図りました。

<各部門の検討内容と結果>

(1) 会誌部門

会誌アンケート、代議員モニター、支部長会議、研究委員会などからの意見や要望を踏まえて、学会誌の品質の維持と学会員からのニーズに応えられる会誌作りに努めました。具体的には、特集、技術解説、研究動向、話題、講座等を魅力ある内容とするとともに、記事のバランスにも配慮しました。今期（2023 年 5 月号～2024 年 3 月号）は、特集 34 編、技術解説や話題記事 19 編、それ以外にも多数のシリーズ企画を掲載し、タイムリーな情報を学会員に提供しました。学会内の様々な委員会やイベントと会誌の相乗効果によって、学会活性化と学会員の満足度向上に資するよう、昨年度に引き続いて委員会やイベントと会誌の連動企画を検討しました。年次大会、冬季大会との連動記事については、2024 年 5 月号以降の掲載に向けて、生成 AI に関する特集と環境経営に関する特集の具体化をすすめました。また、専門外の読者に対して関連分野における技術を系統的に紹介することを目的として、2023 年 3 月号から引き続き、連載講座「映像符号化技術の進展」を掲載しました。2024 年 3 月号からは新連載講座「幸福長寿社会を実現する映像情報技術」を開始しました。アクションプランに掲げた学会誌の電子化については、学会員の意向を把握するための事前アンケートの実施に向けて、設問案を作成しました。さらに、維持会員社のメリット向上に向けた学会誌の企画についても議論をすすめ、「きらり。中のヒト」の記事と連動して広告（求人、インターンシップ案内等）が出稿できるような企画を立案しました。

(2) 海外文献部門

海外文献部門委員会は、昨年度文献調査方法の見直しを行い、今年度より文献調査等の審議はメール審議で行いました。また Web 更新作業の管理者が退任不在となり、更新が困難であることから、今年度新規調査分から Web 公開はせず、学会誌のみでの掲載といたしました。また今年度より現在抄訳対象論文誌に加え、国際会議発表原稿も抄訳対象とし、文献調査を行いたしました。

(3) ニュース部門

ニュース部門委員会は、記事選定等の審議はメール審議で行いました。また今年度「NHK 技研公開」、「Inter BEE」は、オンサイトで開催され、執筆担当者が現地取材し、「NHK 技研公開 2023

見聞記」は、2023年9月号に、「Inter BEE 2023 見聞記」は、2024年3月号に掲載いたしました。

また企画委員会には、引き続き海外文献部門・ニュース部門の部門委員長も参加し、会誌部門と海外文献・ニュース両部門の3部門間での情報共有を密にし、一般読者にもわかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

④ 論文委員会（担当：小池編集担当理事）

2023年度の論文委員会の構成は、安藤慎吾委員長（和文論文編集委員会委員長，MTA編集委員会委員長兼務），和文論文編集委員会副委員長の宮崎勝委員と吉田大我委員，MTA編集委員会副委員長の加藤晴久委員と大川裕司委員，編集担当理事（1年目）の小池崇文委員，編集長の谷口行信アドバイザーの7名でした。幹事には、宮崎勝委員が指名されました。

6月の新体制後の委員会では、運営方針や体制、投稿数・特集提案状況などの確認を行うとともに、短期査読論文特集についてのアンケートの実施、和文・MTA公開論文の学術論文データベースのエブスコホストへの収録、和文論文と英語論文の相互翻訳を検討しました。また、海外からのMTA論文特集提案についても検討しました。

10月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、エブスコホストへの収録、会員への論文投稿に関するアンケート対象者の選定、再査読時の判定結果、和文論文と英語論文の相互翻訳について検討を行いました。また、論文編集委員の追加招聘についても検討しました。

2月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、論文賞候補として、和文論文・MTA論文からそれぞれ3編、合わせて6編の論文を選定し、選奨委員会へ提出しました。また、エブスコホストへの収録はMTA 2021年1月号から登載すること、和文論文投稿規定と査読要領とのコンフリクトの修正、インターネット上の情報源を引用時の表記方法、和文論文と英文論文の相互翻訳、について検討しました。

(1) 和文論文関係

・2023年度（2023年5月号～2024年3月号の計6号）は、22編の論文等を掲載しました（論文6編，招待論文2編，フィールド論文6編，招待フィールド論文4編，研究速報1編，動画付き研究速報1編，特集巻頭言2編）。（参考：2022年度の掲載数は論文10編（招待論文1編含む），フィールド論文5編（招待フィールド論文4編含む），研究速報2編，特集巻頭言2編）

(2) MTA 関係

・2023年度（2023年7月号～2024年4月号の計4号）は、30編の論文等を掲載しました（論文24編，招待論文3編，特集巻頭言3編）。（参考：2022年度の掲載数は35編（論文30編，招待論文1編，特集巻頭言4編）

・2023年6月に Impact Factor が付与されていることが確認されました。

⑤ 技術委員会（担当：笹出調査担当理事）

今期は3回の会合を開催し、本会の研究委員会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。本年度より、相澤清晴委員長が就任されました。

各研究委員会の活動状況および今後の予定を確認するとともに、調査研究費支出状況を確認するなどして、各研究委員会間の情報共有を進めました。研究会活動はハイブリッド開催、現地開催が増えてきました。技術委員会では、各研究委員会がハイブリッド開催をより円滑に進められるようにするため、ハイブリッド開催の事例を共有し、ノウハウを蓄積してきました。

調査研究費の各研究委員会への配分方法を検討しました。研究会の発表件数、研究委員会提案の会誌特集、特集論文の掲載数を、実績連動予算として、例年の活動実績評価項目に追加した試算を行い、次年度予算から適用することを決定しました。直近である2024年度の予算配分については、実績評価項目に発表件数を加え、2023年11月までの活動実績により算出された配分案が承認されました。

2023年度より、技術報告冊子体とCDを廃止しました。オンラインの技術報告は、3月末までに38分冊を発行しました。購読者数の伸び悩みがみられるため新年度へ向け、各研究委員会メンバーへの「研究会年間登録」周知と、所属機関の図書館、資料室等への「技報アーカイブ」勧誘を、技術委員会メンバーへ改めて依頼しております。

第26回「優秀研究発表賞」について、各研究委員会選考結果を確認・検討し、受賞者13名を

決定しました。ヒューマンインフォメーション研究委員会から選考された受賞候補者、次点候補者共に、残念ながら入会辞退の意向であったため、同研究会からの受賞はなしとなりました。マルチメディアストレージ研究委員会と映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会から同一の発表が受賞対象として選考されましたが、当該発表の申込先がマルチメディアストレージ研究委員会であったことを確認した上で、同研究委員会からの受賞とし、映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会側は、次点候補を繰り上げ受賞とすることを決定しました。

放送技術研究委員会の主催による「テレビ東京放送設備見学会」を10月27日(金)に開催しました。

テレビ東京の技術担当者が「テレビ東京のバーチャルプロダクションの取り組み」を技術的な解説を含めて紹介、さらに、番組制作や放送の流れを実際の放送現場を見学しました。学生26名、社会人9名に参加していただきました。

⑥ 選奨委員会（担当：山下総務担当理事）

学会選奨規程に基づき丹羽高柳賞については、功績賞1名、業績賞1件、論文賞3編、鈴木記念奨励賞については6名を選考しました。技術振興賞については、進歩開発賞（現場運用部門）3件、進歩開発賞（研究開発部門）2件、コンテンツ技術賞2件、映像情報メディア未来賞2件を選定しました。

コロナ禍以降、選考はオンライン会議形式で実施してきましたが、対面式でのプレゼンを、との要望があったことを受け、2023年度はハイブリッド会議形式で実施しました。選考部会メンバーには現地参加をお願いし、プレゼンターと対面の質疑応答が行えるよう促す一方で、遠隔地の方はオンライン参加も可能としました。

近年の応募数の減少への対応として周知の拡大を図りました。これまで実施していた、学会HP、会誌での周知と維持会員社への応募依頼状の送付、およびメールマガジンでの周知に加えて、今年度は民放連加盟局へ選奨各賞への推薦願いを送付するなどの対応を行いました。加えて委員会構成メンバーに関連各所への応募も促しました。この結果、いくつかの部門では応募件数の増加があり、一定の効果が得られました。

⑦ フェロー選定委員会（担当：樋口総務担当理事）

フェロー選定委員会では、申継事項やアクションプランはなく、フェロー選出規定13条第1項「単年度に選出されるフェロー会員の数については、正会員および名誉会員の合計数の0.2%程度を上限とする。」にのっとり、推薦のあった候補者から2024年はフェロー3名を選出しました。新型コロナウイルス感染症は2023年5月より5類感染症に移行しましたが、昨年に引き続き第1回、第2回フェロー選定委員会ともオンラインの開催となりました。

⑧ テストチャート委員会（担当：笹出調査担当理事）

テストチャート頒布事業は、学会の財政面からも非常に重要な事業です。2022年4月に頒布を開始した超高精細広色域HDR版標準動画像第2版について、既にHDR版第1版購入者に割引頒布の周知を行いましたが引き合いはありませんでした。さらなる第2版の特徴のPRを進めることが重要です。また、高フレームレートHFR版標準動画像Dシリーズについてはニーズのヒアリングを継続してきました。昨今のXR、メタバースの隆盛を受けてハイフレームレート映像へのニーズが高まってきており、2024年度は引き続きニーズの調査をすすめる必要があります。22.2マルチチャンネル標準音源Bシリーズの制作については、2023年度の進捗はありませんでしたが、オブジェクトベース音源の実用化が進んでおり、ニーズのヒアリングを継続し、必要に応じ体制を構築し、制作スケジュール等の計画を策定した上で推進する必要があります。なお、テストチャート映像・音声制作検討はARIB評価シーケンス作業班、ARIB音声作業班と連携して進めてきました。

⑨ 国際会議検討委員会（担当：和泉田企画担当理事）

国際会議の企画運営や国際間相互協力等に関する国内外の関連学協会との関係構築と維持を行うことを通じて、本会の活性化や会員サービスの向上につとめました。海外学会との連携では、韓国放送メディア学会(KIBME:Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)との協力体制を構築し、本会年次大会にて「Invited Session of KIBME」と題したセッションを企画してKIBME

から2件の講演を実施しました。また、NHK技研公開の際にITE/KIBME打合せを行い、今後の両学会の連携方法、協力体制について意見交換を実施しました。双方の連携を図る施策について継続的に検討を深めることが合意され、本会では国際会議連携委員会の所掌として作業を進めています。

また、本学会がSID(Society for Information Display)と共催するIDW'23(International Display Workshop)へ組織委員として参画しました。同ワークショップは2023年12月6日～8日に新潟市朱鷺メッセにて開催され、例年通り盛況でした。

⑩ 映像情報メディア発展事業資金運営委員会（担当：上原会計担当理事）

本委員会では、一般国民に対する普及啓発事業や次世代の人材育成事業、会員相互の能力向上事業等を通じて映像情報メディア技術の発展に資することを目的とし、(1) 産業界、学界および一般社会地域と密接した事業、(2) 次世代を担う映像メディア技術者の育成事業、(3) 会員サービスおよび本会の発展に繋がる事業、(4) その他発展事業資金の目的に相応しい事業にて必要となる資金の運営を進めてきました。2023年度は、下記1件の資金活用を実施しました。

・委員会活動

- 2024年2月27日に関西支部より映像情報メディア発展事業資金利用申請を受領。3月7日に3月18日を締切としたメール審議を実施。反対意見はなく、本申請を承認。3月28日第6回理事会にて援助申請の承認を報告。

・映像情報メディア発展事業資金利用申請／活用内容

- 申請者：関西支部
事業名：映像情報メディア学会関西支部 優秀論文発表賞
事業内容：電気関係学会関西連合大会で、映像情報メディア学会の発展に寄与する論文発表に対して関西支部として優秀論文発表を授与する
申請理由：表彰の副賞として授与する楯を含めた費用の補填のため
期待される効果：映像情報メディア学会の発展に寄与する論文の講演発表を表彰することで、当学会に対する理解と活動促進が図れ、且つ学会や社会人の学会加入の促進が期待できる
支出金額：15,070円（楯製作費・包装・送料2名分）

次年度委員会には、上記(1)～(4)事業の支援を引き続き推進いただくことを期待します。

⑪ 長期計画検討委員会（担当：山下総務担当理事）

ライフメンバー制度発足について、ライフメンバー会員が自主的に活動可能な組織化が重要であることから、引き続き検討を進める一方、学会財政への影響も考慮し、今後の収支改善に向けた検討にも着手することとしました。

2023年度事業報告の附属明細書

1. 会員数の異動（2024年3月31日現在）

注：同日付退会者を「退会」に含む，同日付資格喪失者を「資格喪失」に含む

	名誉会員	正会員	学生会員 (内アカデミック学生)	維持会員	特殊会員	準会員	合計
2023年4月始	43	2064	261 (209)	166 (841口)	32	18	2584
入会（変更）	1	70	105 (22)	2 (2口)	1	53	232
退会（死亡）	-1	-201	-101 (-25)	-7 (-24口)	-3	-35	-348
復会		7	1				8
資格喪失		-9					-9
増減	0	-133	5 (-3)	-5 (-22口)	-2	18	-117
2024年3月末	43	1931	266 (206)	161 (819口)	30	36	2467

*アカデミックパートナー登録研究室：23研究室

2. 機関誌，論文集，英語論文誌，研究会資料などの刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

編集委員会（編集長 谷口行信）において、「映像情報メディア学会誌」第77巻第3号通巻848号～第78巻第2号通巻853号の計6号を，隔月（奇数月）1日に，年間計16,560部発行し，会員に配布しました。

今期の編集関係会議は，定例編集委員会として，企画委員会を7回，年次企画委員会を3回（新型コロナウイルス感染予防を考慮し，リモートで5回，ハイブリッドで2回）開催いたしました。

海外文献部門委員会は，昨年度文献調査方法の見直しを行い，今年度より文献調査等の審議はメール審議で行いました。またWeb更新作業の管理者が退任不在となり，更新が困難であることから，今年度新規調査分からWeb公開はせず，学会誌のみでの掲載といたしました。また今年度より現在抄訳対象論文誌に加え，国際会議発表原稿も抄訳対象とし，文献調査を行いました。

ニュース部門委員会は，記事選定等の審議はメール審議で行いました。また今年度「NHK技研公開」，「Inter BEE」は，オンタイムで開催され，執筆担当者が現地取材し，「NHK技研公開2023見聞記」は，2023年9月号に，「Inter BEE 2023見聞記」は，2024年3月号に掲載いたしました。

また企画委員会には，引き続き海外文献部門・ニュース部門の部門委員長も参加し，会誌部門と海外文献・ニュース両部門の3部門間での情報共有を密にし，一般読者にもわかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

今期特集は，基本1テーマで企画し（但し良いテーマがあれば2テーマ），ページ数を厳守しながら，タイムリーでホットな情報提供をいたしました。また年次・冬季大会や研究会で発表される最新情報の提供を行うべく，大会の企画セッションなどから企画をピックアップし，特集，特別寄稿，解説記事への掲載を検討いたしました。さらに記事内容の理解度を深めるため，図はモノクロ掲載を推奨しつつ，作成費を考慮しつつ，必要に応じ図のカラー掲載をいたしました。

①J-STAGEを介したオンラインジャーナルについて

会誌冊子体部分も，継続して発行後2ヵ年を経て，全文公開を行います。

②「ベストアーティクル賞」および「ベスト動画コンテンツ優秀賞」の選定について

会誌1月号～11月号に掲載の記事を対象に，会誌アンケート結果の得票数を基に割り出した評点により，両賞ともに一次選考を行いました。選考により，ベストアーティクル賞は，各号ごとに上位3

件程度（同得点の場合は考慮）の21件を、ベスト動画コンテンツ優秀賞は、5件（例年上位3件を二次選考対象としているが、今回は公開コンテンツ全5件）を二次選考対象とし、企画委員会メンバーにより二次投票を行いました。その結果、ベストアーティクル賞は次の3件、ベスト動画コンテンツ優秀賞は次の1件を選定いたしました。受賞者にはオリジナル図書カードを進呈するとともに、ホームページ上で公表しました。

[ベストアーティクル賞]

・3月号<技術解説>

「日本初の8K LED ドームディスプレイを用いたデジタルプラネタリウム ～技術の概要と、集
団体験型高臨場感ディスプレイ装置の可能性～」

（コニカミノルタプラネタリウム（株） 古瀬弘康氏）

・9月号<技術解説>

「デジタルヒューマン」

（東映（株） 美濃一彦氏）

・9月号<きらり. 中のヒト>

「(第13回) 浅く広く、時々深く テレビ局の技術開発の一様態」

((株) フジテレビジョン 保谷和宏氏)

[動画コンテンツ優秀賞]

・9月号<特集>「メディアアートの拡張と普遍化」

「10. 世界の捉え方、「現実感」を生む技術と表現手法の交差点」

（コグ（デザインオフィス） 石川将也氏）

③海外文献部門委員会

海外文献部門委員会は、昨年度文献調査方法の見直しを行い、今年度より文献調査等の審議はメール審議で行いました。またWeb更新作業の管理者が退任不在となり、更新が困難であることから、今年度新規調査分からWeb公開はせず、学会誌のみでの掲載といたしました。また今年度より現在抄訳対象論文誌に加え、国際会議発表原稿も抄訳対象とし、文献調査を行いました。

④ニュース部門委員会

ニュース部門委員会は、記事選定等の審議はメール審議で行いました。また今年度「NHK技研公開」、「Inter BEE」は、オンタイムで開催され、執筆担当者が現地取材し、「NHK技研公開2023 見聞記」は、2023年9月号に、「Inter BEE 2023 見聞記」は、2024年3月号に掲載いたしました。

⑤その他の新しい試み

- (a) 学会誌の電子化に向けて、会員の意向を把握するための事前アンケートを行うべく、アンケート依頼文案、設問案を検討、作成いたしました。アンケートの実施については、次年度へ引き継ぐことといたしました。
- (b) 今期支部長会議において、維持会員社のメリットのひとつとして当該企業を会誌で紹介してはとの意見があり、<きらり. 中のヒト>欄で、維持会員社でいきいきと仕事をしている社員や職場の様子を紹介できるようにする、企画案を検討いたしました。その結果、現行の企画案に「いきいきと仕事をしている個人や職場の様子を紹介してもらうことで、所属組織のイメージ向上、リクルーティングにも活用いただく。記事の中での宣伝は不可とするが、所属企業（組織）のメリットとして、記事と連動した広告（求人、インターンシップ案内等）を出稿いただくことを可能とする。」を追記することとし、維持会員へのメリットを立案いたしました。実施に向けて、維持会員への周知文案を検討いたします。実施については、次年度へ引き継ぐこととしました。
- (c) <講座>「幸福長寿社会を実現する映像情報技術」の連載を2024年3月号より開始しました。
- (d) 今年度も総務省関連の記事を年1~2件を目途に企画しました。引き続き総務省関連記事の企画を行います。
- (e) 選奨受賞関連記事の企画について
丹羽高柳賞<功績賞>、<業績賞>の受賞者および本年度フェローに認定された方からの「会員へのメッセージ」を9月号に掲載しました。今後も引き続き行います。
- (f) 大会との連携を目的に、2023年年次大会<企画セッション4>「画像生成AIをめぐる法的・倫理的課題」の講演内容を、セッション座長の苗村 健（東大）先生にゲストエディタをお願いし、<特集>欄で企画検討を行い、2024年7月号<特集B>で「画像生成AIをめぐる法的・倫理的課題」と題して、企画いたします。
- (g) 「映像情報メディア年報2023 シリーズ」について

10の研究委員会により、2023年1月号から連載を開始し、2024年7月に終了予定。また「映像情報メディア年報2025シリーズ」も連載企画とすることとし、10の研究委員会により、2025年1月号から連載を開始し、2026年7月終了予定。

(h) 学会HPでの全文公開について

アクセス制限なしで<知っておきたいキーワード><年報><きらり。中のヒト><研究開発ツール><ベンチャービジネス>の各欄を、学会HPに全文公開いたしました。今後も継続いたします。

(i) 研究委員会、支部との連携強化をはかるため、会誌企画は例年通り各研究委員会および各支部にテーマの提案をお願いしました。今年度は研究委員会題目提案2件、支部題目提案5件を会誌に掲載いたしました。今後も引き続き提案依頼を行います。

⑥2023年5月号～2024年3月号の特集のテーマとそのページ数

月号	欄名	テーマ	編数	ページ数
2023. 5	特集	伝統から未来へ：ポスト CMOS への胎動	9	31
2023. 7	特集	CG「チョコちゃん」を愛した男（ひと）たち	3	19
2023. 9	特集	メディアアートの拡張と普遍化	13	49
2023. 11	特集	トラストという観点からのブロックチェーン技術の応用	5	24
2024. 1	特集	ローカル 5G	6	40
2024. 3	特集	ボリュメトリック映像や自由視点映像の最新動向	4	19

⑦2023年5月号～2024年3月号の講座、てれび・さろん等のシリーズ連載テーマ

月号	欄名	連載テーマ	掲載回数	連載時期
2023. 5, 7, 9, 11 2024. 1	講座	映像符号化技術の進展	全 6 回	2023年3月から開始 2024年1月終了予定
2024. 3	講座	幸福長寿社会を実現する映像情報技術	全 6 回	2024年3月から開始 2025年1月終了予定
2023. 5, 7, 9, 11 2024. 1, 3,	映像情報メディア年報 2023 シリーズ		全 10 回	2023年1月から開始 2024年7月号終了予定
2023. 5, 7, 11 2024. 1, 3	てれび・さろん	知っておきたいキーワード	全 156 回	2006年6月から開始
2023. 5 2024. 3		私の研究開発ツール	全 112 回	2007年7月から開始
2023. 11		名誉会員からのメッセージ —次代を担う若者に向けて—	全 30 回	2008年8月から開始
—		標準化現場ノート	全 43 回	2010年4月から開始
2024. 1		メディアウォッチ	全 29 回	2012年1月から開始
2023. 5, 7, 9, 2024. 1, 3		きらり。中のヒト	全 16 回	2021年5月から開始
2023. 9		異業種での映像情報メディア	全 39 回	2015年1月から開始
—		私の日本滞在記	全 23 回	2015年11月から開始
2023. 11 2024. 1		思い出の1枚	全 37 回	2017年1月から開始
2023. 5, 7, 9, 11 2024. 1, 3		研究ハイライト	全 43 回	2017年3月から開始
2023. 5		ベンチャービジネス	全 19 回	2018年1月から開始

⑧2023年5月号～2024年3月号の会誌各欄のページ数

欄名	頁数	欄名	頁数	欄名	頁数
年頭インタビュー	13	話題；見聞記	44	ベンチャービジネス	3
ふぉーかす	5	講座	30	メディアウォッチ	3
お祝い文	0	年報シリーズ	45	報告	39
追悼文	1	名誉会員からのメッセージ	6	ニュース	22
受賞者・役員紹介	13	私の研究開発ツール	9	海外文献収録	6
目次	18	知っておきたいキーワード	15	学会からのお知らせ	50
特別寄稿	3	標準化現場ノート	0	学会だより	12
講演	0	きらり. 中のヒト	18	総目次	6
特集本文	182	異業種での映像情報メディア	4	論文目次	6
技術解説	33	私の日本滞在記	0	英語論文目次	4
研究動向	0	思い出の1枚	2	合計	674
話題	20	研究ハイライト	62		

注) 他に、「新刊図書」4冊、「広告」10.5頁、「カタログ同封サービス」1件。「技術資料」0頁、「メールニュース広告」配信0回、「バナー広告」0件。

(2) 論文関係

論文委員会(委員長 安藤 慎吾)において、「和文論文誌」第77巻第3号～第78巻第2号の計6号と、「ITE Transactions on Media Technology and Applications」を第11巻第3,4号, 第12巻第1,2号の計4号を, 下記のとおり J-STAGE を介したオンラインジャーナルとして公開しました。今期の論文委員会は年3回の委員会開催に加えて, e-mail 等を活用して効率的な運営を致しました。

① MTA へのインパクトファクターの付与

2023年6月28日にリリースされた2023年度版“Journal Citation Reports”よりMTAが収録されているESCI(Web of Science:Emerging Sources Citation Index)にインパクトファクターが付与されました。(Journal Impact Factor:1.1)

② 技術委員会での論文特集の提案依頼について

2023年7月5日, 2024年3月11日に開催された技術委員会にて, 論文委員会メンバーの小池編集理事より研究委員会委員長に論文特集提案依頼を行いました。

③ 2023年度丹羽高柳賞論文賞候補論文の選定

和文・MTA各3編の推薦文を起票し, 委員会席上にて最終候補論文とすることを決定しました。推薦文の最終確認を行った後に, 選奨委員会に提出しました。

④ 論文編集功労賞・論文査読功労賞の選定について

和文論文誌・英語論文誌(MTA)の両論文誌の編集委員担当数・査読編数が15編以上の編集委員・査読者を表彰することとし, 今年度は次の方々には表彰状を授与します。表彰状の授与は, 年次大会技術交流会席上で行います。

【論文編集功労賞】

掛谷英紀, 新田直子, 渡邊 修 編集委員

【論文査読功労賞】

吉田俊介 査読者

⑤ 論文誌の新施策等に関するアンケートの実施

メルマガ配信者, アカデミック登録学生, 直近1年間に和文誌・MTAへ論文投稿歴がある方を対象として2023年11月20日に「論文誌の新施策等に関するアンケート」へのご協力のお願いに関するメール送信を行い, 合計で94件のご回答がいただきました。ご回答をもとに, 今後の論文特集企画や論文関連の施策を検討します。

⑥ 短期査読論文特集の企画について

査読結果報告期日を確約する「短期査読論文特集」は上記アンケート結果でも反響があったため, 2025年1月号に和英連動論文特集として再度企画しました。

- ⑦ 和文論文⇔英語論文相互翻訳
「論文誌の新施策等に関するアンケート」でも実施を希望する回答が多かったため、準備を進めます。和文論文誌 2024 年 5 月号で掲載となる著者の何名かにご協力を依頼してトライアルを行った上で、問題がなければ 2024 年 7 月号の和文論文誌・MTA から本始動とする予定です。
- ⑧ 研究委員会への不足分野への編集委員の追加選出について
担当編集委員が不足する傾向の分野（和文誌：放送現業・音声関連）、（MTA：センシング）について、該当論文のみに限定してご対応をいただく臨時 AE のご紹介を、関連する研究委員会委員長にお願いしました。
- ⑨ 学術文献データベース エブスコホストへの収録について
エブスコに契約内容等を確認し、MTA は 2021 年 1 月号から登載予定としました。和文論文誌は著作権譲渡の状況等を確認の上、収録時期を決定します。
- ⑩ 和文誌査読要領の改定について
既発表に関する記載について、投稿規程の記載内容に合わせた形に改定を行いました。
- ⑪ 査読システム上での再査読時の判定結果
再査読時に「採録」「返戻」いずれかの登録となる 現状の 査読システムについて、再査読時に返戻には至らない程度の修正が生じた場合への対応として「条件付き採録」の追加を行うことを決定しました。査読システムの設定、J-STAGE 表示形式・論文原稿表示等の変更を順次行います。
- ⑫ インターネット上の情報源の引用時の表記方法
インターネット上の情報を引用する場合の表記について検討を行いました。「タイトル（ホームページ名称・掲載団体等）／URL／参照日付」を表示する記載例を作成し、記載形式が決定した際には和文論文誌（ITEJ）、英語論文誌（MTA）の執筆手引き・論文執筆時のスタイルファイル（Word・TeX）への追記を行います。また、TeX スタイルファイルにてフォーマットの準備が未完了の BST ファイルについては、追加を検討致します。

⑬2023 年 5 月号～2024 年 3 月号の論文特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2023. 11	論文特集	ディスプレイ IDW' 22 を中心にー	(1)	(7)
2024. 1	論文特集	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文	[4] ，[2]	[23] ，[16]

() は論文，**[]** は招待フィールド論文，[] は招待論文

⑭2023 年 5 月号～2024 年 3 月号 オンラインジャーナルのページ数

欄 名	オンラインジャーナルの頁数(編数)
巻 頭 言 (特 集)	2 (2)
招 待 論 文	16 (2)
招待フィールド論文	23 (4)
論 文 (一 般)	45 (5)
(特 集)	7 (1)
動画付き論文 (一 般)	0 (0)
(特 集)	0 (0)
フィールド論文 (一 般)	41 (6)
(特 集)	0 (0)
研 究 速 報 (一 般)	4 (1)
(特 集)	0 (0)
動画付き研究速報 (一 般)	4 (1)
(特 集)	0 (0)
これすぽんでんす	0 (0)
合 計	142 (22)

⑮英語論文誌「ITE Transactions on Media Technology and Applications」特集テーマとページ数

月号	欄名	テーマ	編数	頁数
2023. 7	Special Section	Invited Papers of Media Technology and Applications	【2】	【21】
2023.10	Special Section	IDW '22	4	27
2024. 1	Special Section	3D Media Technologies in the Age of Telework	8	76

【 】内は Invited Paper

⑯2023年7月号・10月号, 2024年1月号・4月号

英語論文誌「ITE Transactions on on Media Technology and Applications」のページ数

欄名	頁数(編数)
Foreword (Special Section)	3 (3)
Invited Paper (Special Section)	21 (2)
Invited Paper (Regular Section)	8 (1)
Paper (Special Section)	103 (12)
Paper (Regular Section)	114 (12)
合計	249 (30)

(3) 大会・講習会・講演会論文集(予稿集)関係

- ・2023年年次大会講演予稿集(Webダウンロード版およびCD-R版)発行
- ・2023年冬季大会講演予稿集(Webダウンロード版およびCD-R版)発行

(4) 研究会資料(技術報告)関係

巻号	発行年月日	備考
Vol. 47	2023年	特になし
No. 15	5月11日	
No. 16	5月27日	
No. 17	6月1日	
No. 18	6月2日	
No. 19	6月22日	
No. 20	7月14日	
No. 21	7月20日	
No. 22	7月25日	
No. 23	7月28日	
No. 24	8月21日	
No. 25	8月31日	
No. 26	9月1日	
No. 27	9月8日	
No. 28	9月9日	
No. 29	9月25日	
No. 30	10月5日	
No. 31	10月19日	
No. 32	10月26日	
No. 33	11月2日	
No. 34	11月3日	
No. 35	11月3日	
No. 36	11月17日	
No. 37	11月30日	

No. 38	// 12月 7日	//
Vol. 48	2024年	//
No. 1	1月18日	//
No. 2	// 1月18日	//
No. 3	// 1月19日	//
No. 4	// 2月 3日	//
No. 5	// 2月 8日	//
No. 6	// 2月12日	//
No. 7	// 2月15日	//
No. 8	// 2月27日	//
No. 9	// 3月 1日	//
No. 10	// 3月 1日	//
No. 11	// 3月 2日	//
No. 12	// 3月 7日	//
No. 13	// 3月12日	//
No. 14	// 3月14日	//
No. 15	// 3月20日	//

3. 調査・研究活動（定款 第4条（3））

（1）技術委員会

技術委員会（委員長 相澤清晴）は、今期3回（ハイブリッド2回、オンライン1回）開催し、本会の研究委員会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

今期は、新型コロナ前の2019年度以来4期ぶりに、「優秀研究発表賞」（受賞者13名）の授賞式を12月の冬季大会技術交流会席上で行い、受賞者の顔写真と概要を会誌2024年3月号に掲載いたしました。

昨期に引き続き、新領域開拓や多数の有料参加による大規模なシンポジウム開催を奨励するための投資的経費を設定し、申請に基づく運用を行いました。今期中に実施した施策はありませんでした。

今期から、研究会完全電子化（技術報告冊子体・CD廃止）に伴う新サービス、「研究会年間登録」および「技報アーカイブ」を開始いたしました。

（2）研究委員会

次表に記載の10の研究委員会において、それぞれ研究会活動を推進いたしました。

今期は「技術報告」を38分冊、オンラインで出版いたしました。

委員会名	委員長名	開催数	海外	備考
情報センシング研究委員会	池 辺 将 之	7 (2)		
情報ディスプレイ研究委員会	石 鍋 隆 宏	5 (1)		
マルチメディアストレージ研究委員会	町 田 賢 司	4 (4)		
放送技術研究委員会	村 田 英 一	7 (6)		
ヒューマンインフォメーション研究委員会	原 澤 賢 充	4 (2)		
メディア工学研究委員会	村 松 正 吾	7 (5)		
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	名 手 久 貴	5 (1)		
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	上 田 哲 三	2 (0)		
立体メディア技術研究委員会	掛 谷 英 紀	5 (1)		
スポーツ情報処理研究委員会	角 田 貢	1 (0)		

() 付数字は地方開催数。

4. 大会の開催（定款 第4条（4））

（1）年次大会

実行委員会（委員長 苗村 健）において、次の通り企画開催いたしました。

会 期 2023年8月30日（水）～9月1日（金）

会 場 東京理科大学 葛飾キャンパス（Zoom併用）

一般講演 15セッション(74件)
 企画講演 5セッション(19件) / フェロー記念講演: 1件
 参加者数 245名(聴講149名, 一般発表74名, 企画セッション関係者22名)
 技術交流会 実施せず

2023年年次大会セッション, 講演件数, 座長一覧

	セッション名	件数	座長	備考
1	放送・通信方式1	6	榎 芳栄 (TBSテレビ)	
2	マルチメディアストレージ	5	吉村 哲 (秋田大) 町田賢司 (NHK)	
3	放送・通信方式2	6	杉山賢二 (成蹊大)	
4	情報センシング1	4	池辺将之 (北大)	
5	情報ディスプレイの最近の進歩	3	樋口昌芳 (物材機構)	
6	放送・通信方式3 / 放送現業 / 無線・光伝送	5	丸山 猛 (古河電工)	
7	情報センシング2	5	後藤正英 (NHK)	
8	メディア工学1	5	望月貴裕 (NHK)	
9	クロスリアリティ	5	永井岳大 (東工大)	
10	メディア工学2	5	小池崇文 (三菱電機)	
11	ヒューマンインフォメーション	4	原澤賢充 (NHK)	
12	メディア工学3	4	望月貴裕 (NHK)	
13	スポーツ情報処理+招待講演	6	春山知生 (NTTドコモ) 角田 貢 (日体大)	
14	画像生成技術	5	白石路雄 (東邦大)	
15	立体メディア技術+フェロー記念講演	8	高田英明 (長崎大)	
	[企画1] 電気化学ディスプレイの要素技術開発	4	樋口昌芳 (物材機構) 吉村和記 (産総研)	
	[企画2] 量子コンピューティング	5	才田大輔 (富士通)	
	[企画3] 放送番組制作におけるCO ₂ 削減への取り組み	4	木幡美子 (フジテレビ)	
	[企画4] 画像生成AIをめぐる法的・倫理的課題	4	苗村 健 (東大)	
	[企画5] Invited Session of KIBME	2	Jeongchang Kim (Korea Maritime and Ocean Univ.)	

(2) 冬季大会

実行委員会 (委員長 境田慎一) において, 次のとおり企画開催いたしました.

会 期 2023年12月26日(火), 27日(水)

会 場 法政大学 市ヶ谷キャンパス (Zoom 併用)
 一般講演 12セッション (93件)
 企画講演 6セッション (31件) / 招待講演: 1件
 参加者数 288名 (聴講164名, 一般発表93名, 企画セッション講演者31名)
 技術交流会 55名

2023年冬季大会セッション, 講演件数, 座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	メディア工学1 UI, ヒューマンインターフェース	8	横井謙太郎 (東芝インフラシステムズ)	
2	映像表現&CG1	7	名手久貴 (東京工芸大)	
3	メディア工学2 画像認識	9	助川 寛 (東芝インフラシステムズ)	
4	映像表現&CG2	8	岡市直人 (NHK)	
5	メディア工学3 デジタル処理, 音声・感性処理	9	田良島周平 (NTTコミュニケーションズ/都立大)	
6	放送・通信方式, 放送現業	9	安藤悠人 (フジテレビ)	
7	行動/スポーツ情報処理+招待講演	8	春山知生 (NTTドコモ) 角田 貢 (日体大)	
8	立体メディア技術	7	堤 公孝 (NTT)	
9	ヒューマンインフォメーション1	8	荻谷光晴 (神奈川大)	
10	情報センシング1	7	林田哲哉 (NHK)	
11	ヒューマンインフォメーション2	8	荻谷光晴 (神奈川大)	
12	情報センシング2, 情報ディスプレイ, マルチメディアストレージ	6	薄井武順 (NHK)	
	[企画1] NHKスペシャル「映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間」～8K高精細カラー化映像で蘇る新事実～	4	岩鼻幸男 (学会事務局長)	
	[企画2] 自由視点映像生成の最新技術	3	林田哲哉 (NHK)	
	[企画3] 火星衛星探査計画 MMX の全貌 ～火星の衛星フォボスとダイモスを探査, 世界初のサンプルリターンを目指す～	7	三橋政次 (NHK)	
	[企画4] 2022年度各賞受賞企業による記念講演	6	加藤晴久 (KDDI 総合研)	
	[企画5] 企業における生成AI研究開発の最前線	3	田良島周平 (NTTコミュニケーションズ/都立大) 横井謙太郎 (東芝インフラシステムズ)	
	[企画6] 放送局におけるカーボンニュートラルに向けた取り組み	8	岩鼻幸男 (学会事務局長)	

5. 国際会議・講演会の開催（定款 第4条（4））

①年次大会 企画セッション開催

「Invited Session of KIBME」としてKIBMEから2件のオンライン講演を行った。

②KIBME FALL CONFERENCE 2023

基調講演「Application of IP technology in broadcasting facilities」についてITE側で講演者を探したが不成立となった。

会 期：2023年11月20日

場 所：光云（クアンウン）大学校80周年記念館/オンライン同時開催

③第30回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW2023）

会 期：2023年12月6日～8日（共催）

場 所：朱雀メッセ新潟コンベンションセンター

6. 支部活動報告

（1）北海道支部

①支部大会（2023年5月24日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催）

②役職者会

第1回（2023年5月24日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催）

第2回（2023年10月20日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催）

第3回（メール審議, 資料配布日2024年4月3日）

③電気・情報関係学会北海道支部連合大会

（2023年10月28日～29日 公立ほこだて未来大学）

講演件数：一般講演156件

参加者数：268名

<特別講演>

日 時：10月28日 13:15-14:15

講 師：鈴木恵二（公立ほこだて未来大学 学長・理事長）

演 題：公立ほこだて未来大学のIT・AIと地域連携

<北海道総合通信局の紹介>

日 時：10月28日 14:15-14:30

講 師：廣重憲嗣（北海道総合通信局 局長）

演 題：北海道におけるデジタルインフラ基盤の整備と利活用について

<IEEE札幌支部記念講演会>

日 時：10月28日 14:45-17:35

講師および演題：

1. 五十嵐一（北海道大学）

「IEEE札幌支部25周年にあたって」

2. 佐藤孝洋（室蘭工業大学）

「機械学習を応用した電気機器の自動設計に向けて」（招待講演）

3. 大友佳嗣（長崎大学）

「電気電子機器の3次元トポロジー最適化と今後の展望」（招待講演）

4. 折川幸司（北海道大学）

「空芯プレーナインダクタの構造技術とトランスの負荷試験法」（招待講演）

5. 深谷 猛（北海道大学）

「数値線形代数分野における高性能計算の研究」（招待講演）

6. 足立 亮介 先生（山口大学） 約20分でIoTがもたらす25年後のシステム

「制御の未来を想像してみる」（招待講演）

④北海道支部主催 技術セミナー2024（2024年3月6日 かでる2・7 「520研修室」）

講 演1「バーチャルマスターオペレーターの開発」

講 師：高橋康二（株式会社テレビ北海道 技術・DX推進局長）

講 演2「放送・配信におけるAIを用いた偽情報対策」

講 師：荒木俊則（日本電気株式会社 グローバルイノベーションBU

セキュアシステムプラットフォーム研究所 AIセキュリティ研究グループ）

講演3「デジタルアナウンサーの今」

講師：柏口之宏（株式会社ニュージア 代表取締役）

(2) 東北支部

- ①2023年度通常大会（2023年5月25日 NHK仙台放送局／オンライン同時開催）
- ②役職会（すべてメール審議）
 - 第1回幹事会（2023年6月14日）＊支部役職者途中交代について
 - 第2回幹事会（2023年9月12日）＊支部共催講演会の共催範囲拡大について
 - 第3回幹事会（2023年12月26日）＊施設・企業見学会の共同開催提案について
 - 第4回幹事会（2024年2月5日）＊第77回東北北海道技術報告会特別講演について
 - 第5回幹事会（2024年3月15日）＊東北地区若手研究者研究発表会での表彰実施について
- ③施設見学会（2024年2月9日 東北情報通信懇談会、東北受信環境クリーン協議会と共催）
 - ・大学研究機関におけるローカル5Gの利活用
 - ・次世代放射光施設ナノテラス
- ④第76回東北地方技術報告会特別講演（2023年5月12日 NHK仙台放送局と共催）
「最新AI・IoTでダイナミックに変化するメディア技術」
伊本貴士（IT評論家・メディアスケッチ（株）代表取締役）
- ⑤後援団体として参加
 - 1)学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2023（2023年7月16日 東北大学開催）
 - 2)サイエンス・デイAWARD2023表彰「映像情報メディア学会東北支部賞」（2023年7月24日）
＊受賞した東北工業大学工学部電気電子工学科には副賞として東北支部役職者提供のノベルティグッズを贈呈
- ⑥電気関係学会東北支部連合大会（2023年9月5日～6日、岩手県立大学 滝沢キャンパス）
一般講演：発表件数187件
- ⑦2024年東北地区若手研究者研究発表会（共催）
（2024年3月1日、主催：東北地区若手研究者発表会、日本大学工学部開催）
発表件数：口頭発表103件、ポスター103件
＊映像情報メディア学会東北支部優秀発表者表彰2件、受賞者には表彰状を送付

(3) 北陸支部

- ①2023年度北陸支部大会（5月22日、オンライン開催）
- ②第32回中部放送技術フォーラム（2023年5月17日～18日、対面とオンラインのハイブリット開催）
- ③2023年度電気関係学会北陸支部連合大会（2023年9月2日、オンライン開催）
- ④2023年度映像情報メディア学会北陸支部講演会【能登半島地震のため中止】
- ⑤北陸地区電気・電子・情報関係学科の成績優秀学生の表彰（2024年3月1日）
11校11名（賞状と記念品の発送）

(4) 東海支部

- ①支部大会（2023年4月25日、Teamsオンライン開催）
- ②主催
 - <東海支部単独主催>
「知の拠点あいち」見学会（2023年12月18日）
参加者数：12名
 - <電気・電子・情報関連学会と共同主催>
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（2023年8月28日～29日／豊橋技術科学大学）
講演数：312件
参加登録 講演者：316名、聴講者：198名
- ③共催・協賛など
 - <共催>
中部放送技術フォーラム（2023年5月17日～18日、Teamsオンライン開催／NHK名古屋放送局）
発表数：17件／聴講者：延べ300人以上（推定）
 - <支援>
3DMT研究会（2023年10月2日～3日／NHK名古屋放送局）

④役職会

- 臨時役職会（2023年6月20日、Teams オンライン開催） 東海支部・北陸支部の統合方針について
- (5) 関西支部
- ①「他学会連携」
- 電気関係学会関西連合大会（2023年11月25日～26日、於. 関西学院大学 現地開催）
本支部担当講演：G12 画像処理技術 一般講演14件, 招待講演1件
G13 映像メディア関連技術 一般講演4件, 招待講演1件
- ②「専門講習会」(3回)
- ・専門講習会1（2023年7月19日、Zoom 開催）
テーマ：「放送制作におけるIP化最新動向」
講演件数：5件, 有料受講者：37名
 - ・専門講習会2（2023年10月26日、Zoom 開催）
テーマ：「AIの最新動向と放送現場での活用について」
講演件数：4件, 有料受講者：22名
 - ・専門講習会3（2024年2月21日、Zoom 開催）
テーマ：「画像処理・画像解析の最先端技術と活用事例～放送現業, アニメ制作, 医療診断, デイスプレイへの応用～」
講演件数：4件, 有料受講者：20名
- ③「見学会」(1回)
- ・見学会1（2023年11月24日 現地開催）
見学先：国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究センター
見学内容：スーパーコンピュータ「富岳」見学 他
参加人員：50名
- ④役職会 (5回)
- ・第1回役職会（2023年4月27日） Zoom 開催
 - ・第2回役職会（2023年7月3日） ハイブリッド開催
 - ・第3回役職会（2023年10月23日） Zoom 開催
 - ・第4回役職会（2024年1月26日） Zoom 開催
 - ・第5回役職会（2024年3月28日） Zoom 開催
- (6) 中国支部
- ①2023年度中国支部 支部大会（2023年4月19日、Teams オンライン会議）
- ②2023年度(第74回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第1回大会委員会
（2023年6月2日、Zoom オンライン会議）
- ③2023年度(第74回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第2回大会委員会
（2023年7月10日、Zoom オンライン会議）
- ④2023年度(第74回)電気・情報関連学会中国支部連合大会プログラム編成委員会
（2023年9月12日、Zoom オンライン会議）
- ⑤2023年度(第74回)電気・情報関連学会中国支部連合大会
（2023年10月28日、Zoom オンライン開催（幹事：岡山大学））
部門数：27, セッション数：41, 講演数：194件
- ⑥2023年度中国支部 役員・運営委員会（2023年12月18日、Teams オンライン会議）
- ⑦2023年度(第74回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第3回大会委員会
（2024年2月14日、ZOOM オンライン会議）
- ⑧2023年度電気・情報関連学科優秀卒業生表彰 58校90名
- ⑨2024年度中国支部 支部役職者選挙（2024年2月28日～3月23日、Web 投票）
- (7) 四国支部
- ①四国支部通常支部大会（2023年5月16日、東京第一ホテル松山）
- ②四国支部役職会
- 第1回役職会（2023年7月3日～7月14日、メール審議）学会誌記事題目・企画提案について
 - 第2回役職会（2023年9月20日～10月12日、メール審議）次年度研究会の支部地域開催について
 - 第3回役職会（2023年11月17日～12月15日、メール審議）次年度役職者選出について
- ③電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会（2023年9月24日、四国電力（株）総合研修所）
参加者数：351名 発表者 聴講者 座長等全て含む実績

- 第1回実行委員会 (2023年5月30日, オンライン)
- 第2回実行委員会 (2023年9月1日～9月7日, メール審議)
- 臨時実行委員会 (2023年9月27日～10月4日, メール審議)
- 第3回実行委員会 (2023年12月1日, オンライン)
- ④四国コンテンツ映像フェスタ2023 (協賛 審査員/副賞提供)
- 応募作品事前審査 (2023年12月11日～12月25日)
- 審査会・表彰式 (2024年2月17日)
- (8)九州支部
 - ①支部通常大会 (2023年5月12日, Teams オンライン会議)
 - ②2023年度電気・情報関係学会九州支部連合大会
(2023年9月7日～8日, 崇城大学)
講演件数: 一般講演 383件 (2022年度 336件)
参加者数: 596名 (2022年度 563名)
特別講演
講 師: 篠原昌己 (Japan Advanced Semiconductor Manufacturing)
演 題: 「日本における卓越した半導体製造の推進」
 - ③放送技術研究会 (本部と共催)
(2024年1月25日～26日, ハイブリッド開催 (佐賀大学 本庄キャンパス))
学生および若手発表: 18件
特別講演1
講 師: 嘉数 誠(佐賀大)
演 題: 「ダイヤモンド半導体の最近の進展 ～パワー半導体デバイスと大口径ウェハ～」
特別講演2
講 師: 小柳謙治(サガ電工)
演 題: 「サガ電子工業の紹介および事業内容」
特別講演3
講 師: 田口光雄(長崎大)
演 題: 「不平衡給電超低姿勢逆Lアンテナで構成した高機能アンテナの設計法」
 - ④役職会
第1回役職会 (2023年5月博多区) ※2023年度支部通常大会議案について
第2回役職会 (2024年4月メール審議) ※2024年度支部通常大会開催について

7. 支部別会員数 (2024年3月31日現在)

支部名	正会員	学生会員	合計	維持会員
北海道支部	40	3	43	5社 (15口)
東北支部	64	0	64	16社 (32口)
北陸支部	47	2	49	4社 (6口)
東海支部	110	2	112	15社 (35口)
関西支部	264	9	273	11社 (88口)
中国支部	58	1	59	14社 (24口)
四国支部	37	0	37	9社 (12口)
九州支部	68	2	70	15社 (29口)
支部合計	688	19	707	89社 (241口)

注: 正会員には名誉会員を含める

注: 学生会員にはアカデミックパートナー学生を含まない

8. 図書の企画・刊行 (定款 第4条(2)項)

編集委員会 (編集長 谷口行信) において, 会誌連載講座, 会誌連載シリーズなどの単行本化を検討しました. 今年度も, 体系的 (冊子) にはせず, このままの形態で学会HPにて公開することにしました.

9. ITEテストチャートの作成・頒布 (定款 第4条(2))

I T Eテストチャート委員会(委員長 日下部裕一)を中心に以下の事業を展開しました。

- (1) 超高精細・広色域HDR版標準動画は2019年3月の頒布開始以来比較的好調な引き合いがありましたが今年度は下火となり予算目標額に達しませんでした。
一方、スタジオにてHDR効果を際立たせた照明により撮影、制作した超高精細・広色域HDR版標準動画第2版を2022年4月に頒布を開始しましたが引き合いはありませんでした。第2版の特徴をさらにPRする必要があります。
- (2) 3次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会(主査 浜中邦基), ARIBと共同で3次元マルチチャンネル音響標準音源Bシリーズとして、オブジェクトベース標準音源の制作を開始しました。今年度はチャンネルチェック音源について制作を行い、他の音源制作については2024年度に実施することとしました。
- (3) 透過型/反射型ハイビジョンテストチャートなどのハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像, 超高精細・広色域標準動画Aシリーズ/Bシリーズについても引き合いが続いています。

10. 丹羽高柳賞, 技術振興賞, 鈴木記念奨励賞, 映像情報メディア未来賞の選考と贈呈(定款 第4条(5))

[各賞受賞者氏名/敬称略]

<丹羽高柳賞>

(1) 功績賞

- ①受賞者: 須川成利 (東北大学 未来科学技術共同研究センター)
功績: 高性能CMOSイメージセンサの先進的研究開発と実用化

(2) 業績賞

- ①受賞者: 劉 健全・山崎智史・佐々木洋平 (日本電気)
業績: 発見型映像検索技術の研究開発と実用化

(3) 論文賞

- ①受賞者: 塚本 拓 (アストロデザイン/東京電機大学)
題目: 2/3型プリズム分光4板方式による4K 240 fps 放送番組制作用カメラの開発
- ②受賞者: Chisaki Sato, Chihiro Tsutake, Keita Takahashi, Toshiaki Fujii (Nagoya University)
題目: Direct Super Resolution for Multiplane Images
- ③受賞者: Masaki Yamauchi, Tomohiro Yendo (Nagaoka University of Technology)
題目: Light Field Display Using WavelengthDivision Multiplexing

<鈴木記念奨励賞>

- ①受賞者: 東田 諒 (NHK)
題目: 電流誘起磁壁移動を用いた空間光変調器によるホログラム再生 (年次 11C-5)
- ②受賞者: 富岡宏平 (NHK)
題目: シーンに応じて解像度・フレームレート・露光時間をエリア制御するイメージセンサ (年次 12C-1)
- ③受賞者: 吉村一希 (東京理科大学)
題目: 適応予測と事例探索を併用した確率モデルの最適化に基づく Lenslet 画像の可逆符号化 (年次 21B-2)
- ④受賞者: 今津良祐 (名古屋大学)
題目: 単眼画像と少量の付加情報を用いた3次元映像生成手法の検討 (年次 32B-3)
- ⑤受賞者: 酒井宏伸 (電気通信大学)
題目: 瞼を利用した視覚拡張の検討 (冬季 11B-4)
- ⑥受賞者: 佐藤千夏 (東京理科大学)
題目: 乾電池一本で発光する緑色・青色 OLED の開発 (冬季 23C-5)

<技術振興賞>

(1) 進歩開発賞(現場運用部門)

- ①受賞者: 照明業務支援システムの開発チーム
瀧本貴士・細川圭吾 (朝日放送), 松本 大 (パナソニック)
題目: 照明業務支援システムの開発

②受賞者：FALCON チーム
岩崎 淳（中京テレビ）、木村文彦（ユニゾンシステムズ）

題 目：AI 自動ワイプ編集ソフト「FALCON」の開発と実用化

③受賞者：バーチャルマスターオペレーターの開発チーム
代表：高橋康二（テレビ北海道）

題 目：バーチャルマスターオペレーターの開発

(2) 進歩開発賞（研究開発部門）

①受賞者：リアルタイム点群圧縮伝送システムの開発グループ
木谷佳隆・海野恭平・辻 智弘（KDDI 総合研究所）

題 目：リアルタイム点群圧縮伝送システムの開発

②受賞者：宮崎信浩・武部浩明・森脇康貴（富士通）

題 目：医師の診断を支援する 3 次元類似症例画像検索技術の開発と新型コロナウイルス診断への
実応用

(3) コンテンツ技術賞

①受賞者：ビデオペン開発チーム

岸 楓馬・三浦祐樹・篠田貴之（日本テレビ）

コンテンツ名：ビデオペンシステムの開発と機能拡充

②受賞者：バーチャルめざましくん開発チーム

岡本英士・落合信人・眞武亮介（フジテレビ）

コンテンツ名：バーチャルめざましくんの開発

<映像情報メディア未来賞>

①受賞者：小磯諒太・野中敬介（KDDI 総合研究所）、松島恭治（関西大学）

題 目：大型カラーアニメーション計算機合成ホログラムの実現

②受賞者：プロ野球中継へのスマホアプリによる解説音声付加サービス開発グループ

代表：一木麻乃（NHK 広島）、島野雄貴（NHK）

題 目：スマートフォンアプリを活用したテレビスポーツ中継への解説音声付加サービスの開発
と視聴実験の実施

1 1. 名誉会員の推薦（定款 第 4 条（8））

本年度、名誉会員候補者の推薦がなかったため、第 70 回定時社員総会への名誉会員推挙は行わない
ことといたしました。

1 2. フェロー認定証の贈呈（定款 第 4 条（5））

フェロー選定委員会（委員長 境田慎一）において、慎重に検討しました結果、次の 3 名の方にフェ
ローの称号を授与することといたしました。

<フェロー認定者／五十音順>

香川景一郎（静岡大学）、川田亮一（KDDI 総合研究所）、高木康博（東京農工大学）

1 3. 社会貢献活動（定款 第 4 条（7））

1) 2022 年度各賞受賞企業による記念講演（冬季大会併催）

期日：2023 年 12 月 27 日（水）

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス

(1) <技術振興賞>進歩開発賞（現場運用部門）受賞

『自動スイッチングシステムの開発』

森山顕矩（テレビ朝日）

(2) <技術振興賞>進歩開発賞（現場運用部門）受賞

『映像編集の自動モザイク入れソリューション「BlurOn」』

BlurOn 開発チーム 吉岡裕弥・加藤大樹（日本テレビ）、渡邊之人（エヌ・ティ・ティ・データ）

(3) <技術振興賞>進歩開発賞（現場運用部門）受賞

『音声合成の開発による AI アナウンスシステムの実用化』

栗原 清・阿部真由美・大蔵哲士（NHK）

(4) <技術振興賞>進歩開発賞（研究開発部門）受賞

『4K/8K 解像度 H.266|VVC 対応リアルタイムコーデックの開発』
4K/8K 解像度 H.266|VVC 対応リアルタイムコーデック開発チーム
河村 圭・木谷佳隆・海野恭平 (KDDI 総合研究所)

(5) <技術振興賞>コンテンツ技術賞受賞

『LED バーチャルプロダクションにおける同期技術を活用したマルチカメラ合成への取り組み』
近藤剛史・宮澤真子・片柳 悠 (テレビ東京)

(6) <映像情報メディア未来賞>受賞

『多元系半導体量子ドットを使った高色純度発光素子の開発』
本村玄一 (NHK), 上松太郎 (大阪大学), 亀山達矢 (名古屋大学)

14. 通常総会の開催 (定款 第4条 (8))

(1) 第69回定時社員総会

会期 2023年5月26日

会場 機械振興会館 + オンライン

(2) 第70回定時社員総会の準備

2024年5月31日に予定し, その準備を行いました.

15. 2023年度理事会の開催 (定款 第4条 (8))

本年度の定例理事会は新型コロナウイルス感染予防のため原則として, リモートで6回, ハイブリッドで2回開催いたしました. このうち, 代表代議員出席3回, 支部長出席(代理を含む)8回にて開催し, 学会の事業活動などを積極的に推進するための検討を行いました.

以上

2023年度決算報告書

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

貸借対照表

2024年 3月31日現在

一般社団法人映像情報マイ7学会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	54,354,330	54,790,381	-436,051
現金	51,135	83,681	-32,546
当座預金	13,285,630	10,303,615	2,982,015
普通預金	36,844,032	36,997,700	-153,668
郵便振替貯金	3,698,439	6,966,298	-3,267,859
定期預金	475,094	439,087	36,007
未収会費	1,429,600	1,279,900	149,700
未棚卸資産	3,196,615	3,780,241	-583,626
貯蔵品	11,156,143	11,378,678	-222,535
有価証券	399,500	514,000	-114,500
立替金	0	5,000,000	-5,000,000
仮払引当金	72,743	85,713	-12,970
貸倒引当金	402,310	401,350	960
貸倒引当金	-78,500	-83,700	5,200
流動資産合計	70,932,741	77,146,563	-6,213,822
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	10,768,414	10,768,414	0
選奨基金	15,487,743	15,807,151	-319,408
啓発普及基金	14,000,000	14,000,000	0
研究・特別企画基金	26,597,768	26,597,768	0
記念事業特定資産	35,850,294	35,850,294	0
会誌活性化等特定資産	25,871,500	27,871,500	-2,000,000
事務局設備特定資産	860,310	860,310	0
鈴木記念賞特定金	1,675,689	1,702,617	-26,928
発展事業基金	8,224,880	7,977,316	247,564
特定資産合計	139,336,598	141,435,370	-2,098,772
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	5	5	0
什器備品	1	1	0
保証金	1,714,800	1,714,800	0
その他固定資産合計	1,714,806	1,714,806	0
固定資産合計	144,051,404	146,150,176	-2,098,772
資産合計	214,984,145	223,296,739	-8,312,594
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	765,423	935,275	-169,852
前受金	0	55,000	-55,000
前受会費	230,300	759,300	-529,000
預り金	175,132	160,273	14,859
賞与引当金	2,286,265	2,553,065	-266,800
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	69,500	373,400	-303,900
流動負債合計	3,596,620	4,906,313	-1,309,693
2. 固定負債			
退職給付引当金	17,972,448	17,250,771	721,677
固定負債合計	17,972,448	17,250,771	721,677
負債合計	21,569,068	22,157,084	-588,016
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	-8,000,000	-8,000,000	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	193,415,077	201,139,655	-7,724,578
(うち特定資産への充当額)	-16,741,000	-16,741,000	0
正味財産合計	193,415,077	201,139,655	-7,724,578
負債及び正味財産合計	214,984,145	223,296,739	-8,312,594

貸借対照表内訳表

2024年 3月31日現在

一般社団法人映像情報行`17学会

科 目	実施事業			
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	-106,354,415	-12,213,211	-1,622,950	-3,491,421
現金	-8,903,133	-8,258,095	-218,736	-260,889
当座預金	84,109,730	8,248,633	0	2,848,473
普通預金	-194,752,810	-13,199,588	-1,404,214	-6,085,701
郵便振替貯金	13,191,798	995,839	0	6,696
定期預金	0	0	0	0
未収会費	0	0	0	0
未収資産	387,765	366,450	0	0
棚卸資産	0	0	0	0
貯蔵品	399,500	0	0	0
立替金	0	46,530	0	0
仮払金	0	0	0	0
他会計へ振出	20,759,024	497,088	0	553,475
貸倒引当金	0	0	0	0
流動資産合計	-84,808,126	-11,303,143	-1,622,950	-2,937,946
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
定期預金	0	0	0	0
基本財産合計	0	0	0	0
(2) 特定資産				
退職給付引当資産	0	0	0	0
選奨基金	-15,000,000	0	0	30,487,743
啓発普及基金	0	0	0	0
研究・特別企画基金	0	26,597,768	0	0
記念事業特定資産	0	0	0	0
会誌活性化等特定資産	25,871,500	0	0	0
事務局設備特定資産	0	0	0	0
鈴木記念賞特定資産	0	0	0	3,590,439
発展事業基金	0	0	0	0
特定資産合計	10,871,500	26,597,768	0	34,078,182
(3) その他固定資産				
ソフトウェア	-81,576	0	0	0
什器備品	0	0	0	0
保証金	0	0	0	0
その他固定資産合計	-81,576	0	0	0
固定資産合計	10,789,924	26,597,768	0	34,078,182
資産合計	-74,018,202	15,294,625	-1,622,950	31,140,236
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	203,114	215,489	0	149,790
前受会費	0	0	0	0
預り金	1,000	3,066	0	0
賞与引当金	167,460	24,016	0	42,029
未払法人税等	0	0	0	0
他会計より繰入	165,478,534	64,408,566	1,137	54,903,545
未払消費税等	0	0	0	0
流動負債合計	165,850,108	64,651,137	1,137	55,095,364
2. 固定負債				
退職給付引当金	-1,508,478	958,406	0	1,095,038
固定負債合計	-1,508,478	958,406	0	1,095,038
負債合計	164,341,630	65,609,543	1,137	56,190,402
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0	0
2. 一般正味財産				
(うち特定資産への充当額)	-229,392,113	-49,157,917	-1,623,730	-35,175,243
正味財産合計	-238,359,832	-50,314,918	-1,624,087	-25,050,166
負債及び正味財産合計	-74,018,202	15,294,625	-1,622,950	31,140,236

		その他会計(収)				
共通	小計	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係	会誌頒布	会誌50CD-ROM
31,425,197	-92,256,800	17,360,509	587,978	116,326,214	15,222,258	29,952
-257,092	-17,897,945	-1,171,515	-3,595	-668,205	3,300	0
-33,888,982	61,317,854	26,753,612	609,935	105,340,042	15,126,330	0
72,933,626	-142,508,687	-35,349,941	-21,008	11,787,895	0	0
-7,362,355	6,831,978	27,128,353	2,646	-133,518	92,628	29,952
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	754,215	1,266,450	0	407,990	66,600	0
0	0	0	0	10,387,858	0	768,285
0	399,500	0	0	0	0	0
0	46,530	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	21,809,587	17,198,850	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
31,425,197	-69,246,968	35,825,809	587,978	127,122,062	15,288,858	798,237
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	15,487,743	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	26,597,768	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	25,871,500	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	1,675,689	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	69,632,700	0	0	0	0	0
0	-81,576	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	-81,576	0	0	0	0	0
-1,914,750	69,551,124	0	0	0	0	0
29,510,447	304,156	35,825,809	587,978	127,122,062	15,288,858	798,237
0	568,393	2,288	0	-2,288	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	4,066	0	0	0	0	0
0	233,505	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
31,441,853	316,233,635	-618,061	0	23,400	4,120,684	0
41,005	41,005	0	0	0	0	0
31,482,858	317,080,604	-615,773	0	21,112	4,120,684	0
0	544,966	1,279,002	0	0	0	0
0	544,966	1,279,002	0	0	0	0
31,482,858	317,625,570	663,229	0	21,112	4,120,684	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-1,972,411	-317,321,414	44,462,130	587,978	108,272,530	11,049,303	-797,755
0	0	0	0	0	0	0
-1,972,411	-317,321,414	35,162,580	587,978	127,100,950	11,168,174	798,237
29,510,447	304,156	35,825,809	587,978	127,122,062	15,288,858	798,237

					法人会計	
共通(支部)	年次大会(支部)	科学博物館展示	共通	小計	法人会計	法人会計(支部)
-1,589,223	-103,985	-206,954	-8,314,004	10,055,476	18,156,000	14,108,783
-102,354	-97,405	-3,158	-39,420	-2,819,541	20,809,362	1,985,980
0	0	0	-3,380,345	15,655,096	-171,710,845	0
-1,486,869	-6,580	-203,796	5,897,431	-20,280,893	205,893,557	12,122,803
0	0	0	-10,791,670	17,500,814	-37,311,168	0
0	0	0	0	0	475,094	0
0	0	0	0	0	1,429,600	0
0	0	0	0	701,360	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	26,213	0
0	0	0	0	0	402,310	0
0	0	0	2,879,401	3,207,756	247,370,262	0
0	0	0	0	0	-4,800	0
0	0	0	0	0	-35,000	0
-1,589,223	-103,985	-206,954	-5,434,603	13,964,592	267,344,585	14,108,783
0	0	0	0	0	3,000,000	0
0	0	0	0	0	3,000,000	0
0	0	0	0	0	10,768,414	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	14,000,000	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	35,850,294	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	860,310	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	8,224,880	0
0	0	0	0	0	69,703,898	0
0	0	0	0	0	81,581	0
0	0	0	0	0	1	0
0	0	0	0	0	1,714,800	0
0	0	0	0	0	1,796,382	0
0	0	0	0	0	74,500,280	0
-1,589,223	-103,985	-206,954	-5,434,603	13,964,592	341,844,865	14,108,783
163,764	0	0	-145,860	17,904	196,260	-17,134
0	0	0	0	0	230,300	0
0	0	0	0	8,000	163,066	0
0	0	0	25,725	25,725	1,417,510	0
0	0	0	0	0	70,000	0
0	0	720	42,329,885	41,676,721	-146,522,844	4,370
0	0	0	7,645	7,645	0	0
163,764	0	720	42,217,395	41,735,995	-144,445,708	-12,764
0	0	0	-228,146	-228,146	12,660,121	0
0	0	0	-228,146	-228,146	12,660,121	0
163,764	0	720	41,989,249	41,507,849	-131,785,587	-12,764
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	-8,000,000	0
-1,759,143	-103,985	-207,674	-47,423,852	-27,543,257	473,642,452	14,109,547
0	0	0	0	0	-16,741,000	0
-1,752,987	-103,985	-207,674	-47,423,852	-27,543,257	473,630,452	14,121,547
-1,589,223	-103,985	-206,954	-5,434,603	13,964,592	341,844,865	14,108,783

(単位：円)

小計	内部消去		合計
	一般事業	小計	
32,264,783	0	0	54,354,330
22,795,342	0	0	51,135
-171,710,845	0	0	13,285,630
218,016,360	0	0	36,844,032
-37,311,168	0	0	3,698,439
475,094	0	0	475,094
1,429,600	0	0	1,429,600
0	0	0	3,196,615
0	0	0	11,156,143
0	0	0	399,500
26,213	0	0	72,743
402,310	0	0	402,310
247,370,262	-291,021,124	-291,021,124	0
-4,800	0	0	0
-35,000	0	0	-78,500
281,453,368	-291,021,124	-291,021,124	70,932,741
3,000,000		0	3,000,000
3,000,000	0	0	3,000,000
10,768,414	0	0	10,768,414
0	0	0	15,487,743
14,000,000	0	0	14,000,000
0	0	0	26,597,768
35,850,294	0	0	35,850,294
0	0	0	25,871,500
860,310	0	0	860,310
0	0	0	1,675,689
8,224,880	0	0	8,224,880
69,703,898	0	0	139,336,598
81,581	0	0	5
1	0	0	1
1,714,800	0	0	1,714,800
1,796,382	0	0	1,714,806
74,500,280	0	0	144,051,404
355,953,648	-291,021,124	-291,021,124	214,984,145
179,126	0	0	765,423
230,300	0	0	230,300
163,066	0	0	175,132
1,417,510	0	0	2,286,265
70,000	0	0	70,000
-146,518,474	-291,021,124	-291,021,124	0
0	0	0	69,500
-144,458,472	-291,021,124	-291,021,124	3,596,620
12,660,121	0	0	17,972,448
12,660,121	0	0	17,972,448
-131,798,351	-291,021,124	-291,021,124	21,569,068
0	0	0	0
-8,000,000	0	0	-8,000,000
487,751,999	0	0	193,415,077
-16,741,000	0	0	-16,741,000
487,751,999	0	0	193,415,077
355,953,648	-291,021,124	-291,021,124	214,984,145

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人映像情報学協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	47,100	46,865	235
基本財産受取利息	47,100	46,865	235
特定資産運用益	1,068,500	928,735	139,765
特定資産受取利息	1,068,500	928,735	139,765
受取入金	24,000	23,500	500
受取入金	24,000	23,500	500
受取会費	44,788,650	46,626,650	-1,838,000
正学学生会費	22,283,650	23,711,650	-1,428,000
維持学生会費	20,875,000	21,150,000	-275,000
特殊学生会費	620,000	700,000	-80,000
アデミックパートナー	1,010,000	1,065,000	-55,000
事業収益	13,803,318	22,150,066	-8,346,748
会誌関係収入	4,611,090	3,812,215	798,875
会誌頒布収入	754,995	805,758	-50,763
年次大会収入	2,082,500	1,772,300	310,200
冬季大会収入	1,566,800	1,122,800	444,000
講習会収入	300,000	251,000	49,000
研究会収入	1,819,850	1,356,800	463,050
技術報告収入	1,650,000	5,465,350	-3,815,350
図書関係収入	23,100	0	23,100
ネット収入	994,983	7,563,843	-6,568,860
受取寄付金	263,000	416,000	-153,000
発展事業寄付金	263,000	416,000	-153,000
雑収入	1,327,376	1,318,705	8,671
バックナンバー収入	85,300	80,145	5,155
受取利息	2,085	2,965	-880
雑収入	761,247	762,730	-1,483
連合大会繰入金	367,864	276,185	91,679
閲覧料	110,880	196,680	-85,800
経常収益計	61,321,944	71,510,521	-10,188,577
(2) 経常費用			
事業費	48,089,078	49,047,914	-958,836
給料手当	19,645,612	18,708,445	937,167
派遣賃金	648,464	431,584	216,880
退職給付費用	506,201	0	506,201
福利厚生費	2,727,190	2,617,362	109,828
旅交通費	346,145	85,204	260,941
通信運搬費	2,349,634	2,754,554	-404,920
消耗什器備品	222,535	8,725	213,810
消耗品	889,599	1,082,570	-192,971
修繕費	0	36,520	-36,520
印刷製本費	6,100,673	9,377,004	-3,276,331
賃借料	5,265,639	4,454,448	811,191
支払リース料	560,176	560,176	0
諸謝金	736,084	676,545	59,539
租税公課	484,600	760,500	-275,900
会費	420,239	270,066	150,173
支払負担金	1,107,689	1,027,135	80,554
支払助成金	43,000	43,000	0
広告宣伝費	55,000	286,000	-231,000
委託書	5,003,204	4,912,107	91,097
図書	823,514	805,097	18,417
雑費	153,880	150,872	3,008
管理費	20,774,069	19,942,351	831,718
給料手当	8,362,630	7,963,708	398,922
派遣賃金	577,441	417,159	160,282
退職給付費用	215,476	0	215,476
福利厚生費	1,109,252	1,101,803	7,449
旅交通費	89,897	6,461	83,436
通信運搬費	124,255	138,313	-14,058
消耗品	159,671	140,857	18,814
賃借料	1,510,593	1,509,676	917
支払リース料	324,308	324,308	0
諸会費	179,239	147,205	32,034

租	税	公	課	205,235	180,925	24,310			
会		議	費	621,019	236,058	384,961			
委		託	費	4,757,601	5,051,315	-293,714			
雜			費	113,736	108,681	5,055			
W	e	b	-	I	T				
会	員	管	理	費	1,902,368	1,879,171	23,197		
発	展	事	業	資	金	費	435,912	433,973	1,939
法	人	業	資	金	活	等	15,436	116,040	-100,604
減	価	償	却	費	70,000	70,000	0		
					0	116,698	-116,698		
經常費用計				68,863,147	68,990,265	-127,118			
評価損益等調整前当期經常増減額				-7,541,203	2,520,256	-10,061,459			
評価損益等計				0	0	0			
当期經常増減額				-7,541,203	2,520,256	-10,061,459			
2. 經常外増減の部									
(1) 經常外収益									
貸	倒	引	当	金	戻	入	83,700	79,900	3,800
經常外収益計				83,700	79,900	3,800			
(2) 經常外費用									
貸	倒	引	当	金	繰	入	78,500	83,700	-5,200
貸	倒	損	失	380,000	589,200	-209,200			
賞	与	引	当	繰	入	-266,800	-941,500	674,700	
雜損失				44,275	21,880	22,395			
前	期	修	正	損	31,100	163,578	-132,478		
經常外費用計				267,075	-83,142	350,217			
当期經常外増減額				-183,375	163,042	-346,417			
当期一般正味財産増減額				-7,724,578	2,683,298	-10,407,876			
一般正味財産期首残高				201,139,655	198,456,357	2,683,298			
一般正味財産期末残高				193,415,077	201,139,655	-7,724,578			
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額				0	0	0			
指定正味財産期首残高				0	0	0			
指定正味財産期末残高				0	0	0			
III 正味財産期末残高				193,415,077	201,139,655	-7,724,578			

正味財産増減計算書内訳表

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人映像情報行'17学会

科 目	実施事業					小計	技術報告関係
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール	共通		
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
正学持分会社員会費	0	0	0	0	0	0	0
維持持分会社員会費	0	0	0	0	0	0	0
7がミツパートナ	0	0	0	0	0	0	0
事業収入	4,611,090	1,819,850	0	0	0	6,430,940	1,650,000
会誌収入	4,611,090	0	0	0	0	4,611,090	0
年会収入	0	0	0	0	0	0	0
冬季大会収入	0	0	0	0	0	0	0
講習会収入	0	0	0	0	0	0	0
技術報告収入	0	1,819,850	0	0	0	1,819,850	0
技術報告収入	0	0	0	0	0	0	1,650,000
フットボール収入	0	0	0	0	0	0	0
本部交付金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	596,208	0	0	0	0	596,208	113,455
バックナンバー収入	79,205	0	0	0	0	79,205	6,095
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	513,483	0	0	0	0	513,483	0
支連合大線線入	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	5,207,298	1,819,850	0	0	0	7,027,148	1,763,455
(2) 経常費用							
事業費	19,141,691	4,131,119	95,043	2,102,428	244,614	25,714,895	31,682
給料手当	3,832,126	581,903	0	1,018,967	0	5,432,996	0
派遣賃金	307,200	194,500	0	0	0	501,700	0
退職給付費用	98,741	14,994	0	26,255	0	139,990	0
福利厚生費	591,714	89,933	0	157,289	0	838,936	0
旅費	2,468	28,618	2,820	2,900	0	36,806	0
通信費	2,043,727	135,965	0	29,875	0	2,209,567	21,342
消耗什器備品	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本	175,430	100,086	3,200	163,808	0	442,524	10,340
賞借	5,783,597	0	0	0	0	5,783,597	0
支払リース	702,853	2,105,907	38,000	637,674	0	3,484,434	0
支払リース	241,959	36,756	0	64,316	0	343,031	0
諸租税	44,092	248,012	11,023	0	0	303,127	0
会費	100,520	60,556	0	0	244,614	244,614	0
支払負担金	0	173,790	30,000	0	0	161,076	0
支払助成金	0	0	10,000	0	0	203,790	0
支払委託費	0	0	0	0	0	10,000	0
支店委託費	4,516,710	133,003	0	0	0	4,649,713	0
函書費	695,514	128,000	0	0	0	823,514	0
雑費	5,040	99,096	0	1,344	0	105,480	0
管理費	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0
旅費	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本	0	0	0	0	0	0	0
賞借	0	0	0	0	0	0	0
支払リース	0	0	0	0	0	0	0
諸租税	0	0	0	0	0	0	0
会費	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0
支払助成金	0	0	0	0	0	0	0
支払委託費	0	0	0	0	0	0	0
支店委託費	0	0	0	0	0	0	0
W e b - I	0	0	0	0	0	0	0
会費	0	0	0	0	0	0	0
支部管理費	0	0	0	0	0	0	0
支店委託費	0	0	0	0	0	0	0
発展会計	0	0	0	0	0	0	0
本部経費	0	0	0	0	0	0	0
法人経費	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	19,141,691	4,131,119	95,043	2,102,428	244,614	25,714,895	31,682
評価損益等調整前当期経常増減額	-13,934,393	-2,311,269	-95,043	-2,102,428	-244,614	-18,687,747	1,731,773
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-13,934,393	-2,311,269	-95,043	-2,102,428	-244,614	-18,687,747	1,731,773
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0
雑損失	44,275	0	0	0	0	44,275	0
前期修正損	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	44,275	0	0	0	0	44,275	0
当期経常外増減額	-44,275	0	0	0	0	-44,275	0
当期一般正味財産増減額	-13,978,668	-2,311,269	-95,043	-2,102,428	-244,614	-18,732,022	1,731,773
一般正味財産期首残高	-215,413,445	-46,846,648	-1,528,687	-33,072,815	-1,727,797	-298,589,392	42,730,357
一般正味財産期末残高	-229,392,113	-49,157,917	-1,623,730	-35,175,243	-1,972,411	-317,321,414	44,462,130
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-229,392,113	-49,157,917	-1,623,730	-35,175,243	-1,972,411	-317,321,414	44,462,130

(単位：円)

小計	法人会計		小計	内部消去		合計
	法人会計	法人会計(支部)		一般事業	小計	
0	47,100	0	47,100	0	0	47,100
0	47,100	0	47,100	0	0	47,100
0	1,068,500	0	1,068,500	0	0	1,068,500
0	1,068,500	0	1,068,500	0	0	1,068,500
0	24,000	0	24,000	0	0	24,000
0	24,000	0	24,000	0	0	24,000
0	44,788,650	0	44,788,650	0	0	44,788,650
0	22,283,650	0	22,283,650	0	0	22,283,650
0	20,875,000	0	20,875,000	0	0	20,875,000
0	620,000	0	620,000	0	0	620,000
0	1,010,000	0	1,010,000	0	0	1,010,000
3,949,300	0	6,043,000	6,043,000	-6,043,000	-6,043,000	13,803,318
0	0	0	0	0	0	4,611,090
0	0	0	0	0	0	754,995
2,082,500	0	0	0	0	0	2,082,500
1,566,800	0	0	0	0	0	1,566,800
300,000	0	0	0	0	0	300,000
0	0	0	0	0	0	1,819,850
0	0	0	0	0	0	1,650,000
0	0	0	0	0	0	23,100
0	0	0	0	0	0	994,983
0	0	6,043,000	6,043,000	-6,043,000	-6,043,000	0
0	263,000	0	263,000	0	0	263,000
0	263,000	0	263,000	0	0	263,000
367,864	2,611,140	177,790	2,788,930	-2,609,081	-2,609,081	1,327,376
0	0	0	0	0	0	85,300
0	2,059	26	2,085	0	0	2,085
0	0	177,764	177,764	0	0	761,247
0	2,609,081	0	2,609,081	-2,609,081	-2,609,081	0
367,864	0	0	0	0	0	367,864
0	0	0	0	0	0	110,880
4,317,164	48,802,390	6,220,790	55,023,180	-8,652,081	-8,652,081	61,321,944
12,617,077	0	0	0	0	0	48,089,078
7,888,958	0	0	0	0	0	19,645,612
146,764	0	0	0	0	0	648,464
0	0	0	0	0	0	506,201
734,610	0	0	0	0	0	2,727,190
303,998	0	0	0	0	0	346,145
102,368	0	0	0	0	0	2,349,634
0	0	0	0	0	0	222,535
433,045	0	0	0	0	0	889,599
16,465	0	0	0	0	0	6,100,673
1,001,823	0	0	0	0	0	5,265,639
93,335	0	0	0	0	0	560,176
432,957	0	0	0	0	0	736,084
45,606	0	0	0	0	0	484,600
259,163	0	0	0	0	0	420,239
903,899	0	0	0	0	0	1,107,689
33,000	0	0	0	0	0	43,000
55,000	0	0	0	0	0	55,000
133,491	0	0	0	0	0	5,003,204
0	0	0	0	0	0	823,514
32,595	0	0	0	0	0	153,880
0	24,380,965	5,045,185	29,426,150	-8,652,081	-8,652,081	20,774,069
0	8,362,630	0	8,362,630	0	0	8,362,630
0	577,441	0	577,441	0	0	577,441
0	215,476	0	215,476	0	0	215,476
0	1,109,252	0	1,109,252	0	0	1,109,252
0	8,786	81,111	89,897	0	0	89,897
0	102,724	21,531	124,255	0	0	124,255
0	159,671	0	159,671	0	0	159,671
0	1,510,593	0	1,510,593	0	0	1,510,593
0	324,308	0	324,308	0	0	324,308
0	179,239	0	179,239	0	0	179,239
0	205,234	1	205,235	0	0	205,235
0	550,393	70,626	621,019	0	0	621,019
0	2,494,766	2,262,835	4,757,601	0	0	4,757,601
0	113,736	0	113,736	0	0	113,736
0	1,902,368	0	1,902,368	0	0	1,902,368
0	435,912	0	435,912	0	0	435,912
0	6,043,000	0	6,043,000	-6,043,000	-6,043,000	0
0	15,436	0	15,436	0	0	15,436
0	0	2,609,081	2,609,081	-2,609,081	-2,609,081	0
0	70,000	0	70,000	0	0	70,000
12,617,077	24,380,965	5,045,185	29,426,150	-8,652,081	-8,652,081	68,863,147
-8,299,913	24,421,425	1,175,605	25,597,030	0	0	-7,541,203
0	0	0	0	0	0	0
-8,299,913	24,421,425	1,175,605	25,597,030	0	0	-7,541,203
0	27,700	0	27,700	0	0	83,700
0	27,700	0	27,700	0	0	83,700
0	35,000	0	35,000	0	0	78,500
0	380,000	0	380,000	0	0	380,000
0	-266,800	0	-266,800	0	0	-266,800
0	0	0	0	0	0	44,275
0	31,100	0	31,100	0	0	31,100
0	179,300	0	179,300	0	0	267,075
0	-151,600	0	-151,600	0	0	-183,375
-8,299,913	24,269,825	1,175,605	25,445,430	0	0	-7,724,578
-19,243,344	449,372,627	12,933,942	462,306,569	0	0	201,139,655
-27,543,257	473,642,452	14,109,547	487,751,999	0	0	193,415,077
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-27,543,257	473,642,452	14,109,547	487,751,999	0	0	193,415,077

財産目録

2024年 3月31日現在

一般社団法人映像情報技術学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	51,135
	預金	当座預金		13,285,630
		みずほ新橋		8,512,626
		みずほ青山		4,773,004
		普通預金		36,844,032
		みずほ新橋①		4,168,878
		みずほ新橋②		322,730
		みずほ支部		10,845
		三井住友銀行		10,282,660
		三菱UFJ信託		2,293,277
		住友信託銀行		1,511,035
		北海道支部		206,625
		東北支部		177,129
		関西支部		891,938
		東海支部		367,516
		中国支部		340,473
		九州支部		227,431
		四国支部		370,433
		北陸支部		214,246
		大和証券		15,458,816
		郵便振替貯金		3,698,439
		郵便振替貯金①		3,374,447
		郵便貯金・普通		323,992
		定期預金		475,094
		みずほ新橋		475,094
	未収会費			1,429,600
	入会金			2,000
	正学会員会費			1,387,600
	7カテゴリー会費			40,000
	未収金			3,196,615
	技報予約			1,168,120
	技報別刷			62,350
	技報バックナンバー			35,980
	テストチャート			407,990
	年次大会			251,860
	冬季大会			449,500
	MTA			189,765
	和文論文掲載			198,000
	研究会			366,450
	その他			66,600
	棚卸資産			11,156,143
	テストチャート完成品			10,387,858
	会誌50CD-ROM			768,285
	貯蔵品			399,500
	立替金			72,743
	その他			72,743
	仮払金			402,310
	その他			402,310
	貸倒引当金			-78,500
流動資産合計				70,932,741
(固定資産)				
基本財産				
	定期預金			3,000,000
	定期預金(一般)			3,000,000
特定資産				
	退職給付引当資産			139,336,598
	みずほ銀行支部			979
	大和証券			3,253,000
	三菱UFJ信託普通			3,564,680
	みずほ新橋①			1,259,000
	住友信託銀行			382,249
	三井住友銀行			2,308,506
	選奨基金			15,487,743
	みずほ銀行当座			487,743
	大和証券			15,000,000
	啓発普及基金			14,000,000
	みずほ銀行①			4,000,000

	大和証券			10,000,000
	研究・特別企画基金			26,597,768
	大和証券			20,000,000
	住友信託			4,253,683
	みずほ新橋②			2,344,085
	記念事業特定資産			35,850,294
	郵便振替口座			8,167,940
	三井住友銀行			2,682,354
	大和証券			25,000,000
	会誌活性化等特定資産			25,871,500
	大和証券			25,000,000
	三菱UFJ信託普通			517,922
	みずほ青山当座			353,578
	事務局設備特定資産			860,310
	三菱UFJ信託			860,310
	鈴木記念賞特定			1,675,689
	みずほ当座			256,423
	三井住友			1,419,266
	発展事業基金			8,224,880
	みずほ銀行①			721,292
	郵便振替口座			7,503,588
その他固定資産				1,714,806
	ソフトウェア			5
	什器備品			1
	保証金			1,714,800
固定資産合計				144,051,404
資産合計				214,984,145
(流動負債)				
	未払金			765,423
	会誌作成費			14,190
	調査研究			90,419
	会誌発送			313,994
	表彰・コンクール			149,790
	Web-IT・会員管理			106,183
	システム			
	支部			770
	その他			90,077
	前受会費			230,300
	正学会員会費			205,300
	維持会員会費			25,000
	預り金			175,132
	源泉所得税預り金			42,186
	住民税預り金			103,000
	健康保険預り			7,306
	厚生年金預り金			14,640
	その他			8,000
	賞与引当金			2,286,265
	未払法人税等			70,000
	未払消費税等			69,500
流動負債合計				3,596,620
(固定負債)				
	退職給付引当金			17,972,448
固定負債合計				17,972,448
負債合計				21,569,068
正味財産				193,415,077

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当すべき事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・無形固定資産・一括償却資産
定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、期末債権残高に一定率
を乗じて算出した額を計上している。

賞与引当金・・・翌期支払賞与の当該期間に相当する金額を計上している。

退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000	0	0	3,000,000
小 計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
選 奨 基 金	15,807,151	0	319,408	15,487,743
退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414	0	0	10,768,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
発 展 事 業 基 金	7,977,316	263,000	15,436	8,224,880
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294	0	0	35,850,294
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	27,871,500	0	2,000,000	25,871,500
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,702,617	0	26,928	1,675,689
小 計	141,435,370	263,000	2,361,772	139,336,598
合 計	144,435,370	263,000	2,361,772	142,336,598

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000		3,000,000	
小 計	3,000,000		3,000,000	
特定資産				
選 奨 基 金	15,487,743		15,487,743	
退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414			10,768,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000		14,000,000	
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768		26,597,768	
発 展 事 業 基 金	8,224,880		8,224,880	
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294		35,850,294	
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	25,871,500		25,871,500	
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310		860,310	
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,675,689		1,675,689	
小 計	139,336,598		128,568,184	10,768,414
合 計	142,336,598		131,568,184	10,768,414

5. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	3,924,615	3,924,610	5
そ の 他 工 具 備 品	966,000	965,999	1
合 計	4,890,615	4,890,609	6

6. 重要な後発事象

該当なし。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	基本財産	3,000,000	0	0	3,000,000
	基本財産計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産	選奨基金	15,807,151	0	319,408	15,487,743
	退職給付引当資産	10,768,414	0	0	10,768,414
	社会貢献活動基金	14,000,000	0	0	14,000,000
	研究・特別企画基金	26,597,768	0	0	26,597,768
	発展事業基金	7,977,316	263,000	15,436	8,224,880
	設備拡充等特定資産	0	0	0	0
	記念事業特定資産	35,850,294	0	0	35,850,294
	会誌活性化等特定資産	27,871,500	0	2,000,000	25,871,500
	事務局設備引当資産	860,310	0	0	860,310
	鈴木記念賞特定資産	1,702,617	0	26,928	1,675,689
	特定資産計	141,435,370	263,000	2,361,772	139,336,598

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
貸倒引当金	83,700	78,500	0	83,700	78,500
賞与引当金	2,553,065	0	0	266,800	2,286,265
退職給付引当金	17,250,771	721,677	0	0	17,972,448
引当金計	19,887,536	800,177	0	350,500	20,337,213

監査報告

2024年5月13日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会長 児玉 圭司 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監事 池田 哲臣 

監事 川前 治 

私たち監事は、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

2024年度役員改選選挙結果

2024年度役員改選選挙は、名誉会員および正会員の投票により行われ、以下の方々を選出した。
なお、理事の担務は5月31日開催の臨時理事会において協議のうえ正式に確定する。

<投票期間：2月23日（金）0時～3月23日（土）24時>

次期会長 ： 齋藤英雄（慶應義塾大学）
副会長（本部）： 松田一朗（東京理科大学）
副会長（支部）： 藤井俊彰（名古屋大学）
総務担当理事： 藤井亜里砂（日本放送協会）
会計担当理事： 三木圭輔（TBSテレビ）
調査担当理事： 森本 聡（フジテレビジョン）
編集担当理事： 藤崎好英（日本放送協会）
企画担当理事： 入江 豪（東京理科大学）
監事 ： 石井啓二（NHK財団）

2024年度事業計画

1 はじめに（担当：樋口総務担当理事）

映像情報メディア分野の近年の動向を見渡してみますと、映像技術やネットワーク技術の急速な進化により、ドローンやスマートフォンを活用して世界中のあらゆる様子をリアルタイムで伝えることが可能になりました。また、生成AIを用いた映像や音声の合成は、映像コンテンツの生成や大量のデザイン案の提案など、ビジネスの効率化から新しい価値提供にまで活用の機会が広がっています。一方で、SNS利用に伴うプライバシー侵害のリスクや本物と見間違えるような映像によるフェイクニュースの懸念など映像に関わる課題も増えてきており、映像情報を安心かつ安全に扱えることが求められています。

本会は、映像情報メディアに関する学理ならびに技術の進歩向上、普及をはかることを目的として、映像・音声や表示・表現などの分野での技術革新が進む今日の社会に貢献するべく活動してきました。2020年に創立70周年を迎え、次の80周年に向けてこれまで以上に積極的に活動してまいります。映像情報メディアに関する大会、国際会議、研究会を通して、当該分野の技術レベルをなお一層引き上げるとともに、研究者間のネットワーキングを強力にサポートいたします。コロナ禍をきっかけに始まったオンライン開催を含めて、現地開催、ハイブリッド開催について、参加者の利便性向上とコミュニケーション活性化の観点で運営方法を工夫していきます。4K・8K映像機器の研究、開発をスムーズに進める上で有効なテストチャートについては超高精細・広色域HDR版標準動画像(Cシリーズ)第2版のPRを強化し頒布拡大に尽力いたします。また研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」は、環境負荷削減や支出抑制をはかるため2023年度よりオンライン配布に移行しており、今年度も継続いたします。多くの学会との共通課題である会員数の増加について、今年度もアカデミックパートナー制度を積極的に展開し、若年時より本会へ興味を抱いていただくことに注力していきます。

3つの基本施策である「学会の活性化」、「新分野の開拓」、「広報活動と会員サービスの拡充」を、2024年度はさらに充実させて学会事業を運営してまいります。

【2024年度基本施策】

1-1 学会の活性化

2024年度の学会運営体制は、中心メンバーとなる17名の理事と、目的ごとに設置した11の委員会が、理事会にて情報共有を密に図りながら活動を進めていきます。各委員会は、それぞれ2023年度に取り纏めたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にしながら活発な学会活動と課題解決に取り組みます。理事会に関しては、全理事および監事が出席する定例理事会として8回の開催を予定し、また、ハイブリッド／リモート開催を積極的に活用することを考えています。これにより、各理事の負担を緩和しつつ重要案件を集中的に審議するとともに、支部長や代表代議員の参加も求め、理事、支部、代議員一体となった運営を進めていきます。

2023年度の予算は、研究会等のハイブリッド開催が増えることを予想し、赤字予算(約802万円)の編成でスタートしました。技術報告の電子化など支出の抑制を図るとともに、会議費支出減、各支部からの戻入等による経常費用の減がある一方、テストチャート頒布事業の不振、技報アーカイブ収入減により最終的に772万円の赤字となりました。2024年度は、昨年度に引き続き赤字予算を編成しているものの、研究会の技術報告の電子化や運営の効率化など支出の抑制を図り、赤字幅の抑制に努めます。

学会活性化の最重要課題である会員増のため、大学や高等専門学校等に、研究室単位で会員登録できる「アカデミックパートナー制度」を活用していただくことで、特に若手研究者の会員増に取り組んでいきます。年間4万円で10名までの学生を登録可能なBASIC版、半額の年間2万円で5名まで登録可能なLITE版、より多くの人数を登録可能なEXTENSION版を選択いただけます。本制度を利用して、学生のうちから多くの方に本学会に興味を持っていただければと思います。

学会の本部と地方支部の連携強化のための施策として、各支部長または支部長代理に理事会に参加して理事会での動きを把握して頂く機会と、本部役員が支部大会に参加して直接対話する機会を設け、意識の共有を図ります。ともに、コロナ禍になって以降はオンライン開催が中心となっており、face to faceの直の意見交換がやりづらいという欠点があるものの、場所、時間による参加の制限が少ないという利点があります。2024年度は、対面での会合開催とオンライン開催それぞれの利点を活かしたハイブリッド開催で意見交換する機会がより多くなることが期待されます。年次大会・冬季大会・支部大会といった機会を活かし、支部の運営や課題について本部との共有を図ってまいります。

本会ならではの取り組みであるテストチャートの頒布事業については、2019年3月より頒布を開始した4K・8K映像の超高精細・広色域HDR版標準動画像(Cシリーズ)は2023年度中の引き合いがありませんでしたので、2022年4月に頒布を開始したCシリーズ第2版の普及に努めます。さらに、高フレームレート版の標準動画像Dシリーズや三次元マルチチャンネル標準音源など続編の制作検討を継続します。

1-2 新分野の開拓

新分野開拓の一環として、国内外の関連学会との連携も引き続き強化してまいります。IEEEとMOU(Memorandum of Understanding)締結の継続により、各研究委員会とIEEE JC(Japan Council)との連携開催に取り組みます。また、韓国放送メディア技術学会(KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)のカンファレンスにおける基調講演を担当するほか、2024年年次大会においてはジョイントセッションを企画いたします。ディスプレイ国際ワークショップ(IDW2024)の米SIDとの共催等、国際連携委員会において検討を進めると共に、他学会との関係維持にも努めます。

また学会誌においては、「生成AI」「スマート農業・スマート漁業の最新動向」など、従来の映像情報メディアの枠にとらわれない、最新の動向や今後の広い活用が見込まれる技術に関して特集を組む予定です。和文論文誌においても、各研究委員会との連携強化のもと、特集号

の充実・新テーマの企画に加え、X（旧 Twitter）及び Facebook 等の SNS を通した論文募集を継続します。さらに英文論文誌 MTA では、2023 年 6 月に Impact Factor1.1 を取得したことにより海外からの投稿増も期待でき、新規テーマの企画とともに幅広く投稿を勧誘し、国際発進力向上を目指します。また、和文・英文のいずれかで投稿され査読を経て採録・公開された論文を、もう一方の言語に翻訳してアーカイブ的な位置づけで公開する論文の相互翻訳について 2024 年度中の実施を予定しています。

さらに、心理や感性、ヒューマンファクターをテーマとした研究会では研究会の開催などを通して、新たな分野を開拓してきます。

1-3 広報活動と会員サービスの拡充

各種 SNS や学会ホームページ（本部・支部）、メーリングリストを通じた情報発信は、有効な広報手段として 2024 年度も積極的に活用してまいります。業界紙への広告出稿等、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開します。

青少年及び社会に対する啓発普及活動の一環として、一般市民も対象にした無料の公開講演会の開催を年次大会行事として検討しています。また、冬季大会においても、一般向け公開講演会等の開催を検討いたします。

また図書の企画・刊行活動の一環として、学会誌掲載の連載講座や連載シリーズの単行本化や、学会ホームページでの公開を検討します。「知っておきたいキーワード」「年報」「きらり。中のヒト」「研究開発ツール」「ベンチャービジネス」は、ホームページでの全文公開を継続します。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

素晴らしい成果を上げている会員の方々に対し引き続き、丹羽高柳賞、鈴木記念奨励賞、技術振興賞、映像情報メディア未来賞、学生優秀発表賞、優秀研究発表賞を贈呈することで、奨励や表彰を行います。またテレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された会員の中から、本会フェローを選定いたします。さらに、長年にわたり在会いただいた会員の方の会費を無料とする制度の実現に向けて検討を継続します。本学会のホームページで発信する情報をより探しやすい見やすくすることを目的として、ホームページの改善に向けた検討を進めます。

2. 機関誌・論文集・研究会資料等の刊行（定款 第 4 条（1））

（1）会誌関係

①冊子体

編集委員会（編集長：亀山 渉）において、会員に新しい情報を提供するとともに、会員の研究発表の場として「映像情報メディア学会誌」を編集、発行し（隔月（奇数月））、会員に配布します。内容については、特集号を中心に企画し、下記の項目を予定しています。

また、特集以外に、タイムリーな技術解説記事、教科書的な連載講座、平易で読み物的な解説記事、年次・冬季大会との連動企画記事、研究委員会、支部との連携による解説記事など、多様な会員のニーズを満たすべく、バランスのとれた魅力的な誌面を目指します。会誌関連動

画コンテンツなど、Web サイトとの連携強化を継続して誌面の魅力向上に努めます。学会HPでは<知っておきたいキーワード><年報><きりり。中のヒト><研究開発ツール><ベンチャービジネス>を、引き続き全文公開いたします。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

昨年度からの申し継ぎの会誌の電子化については、冊子の電子化を行うにあたっては、会誌の検索、閲覧等利便性が不可欠であり、学会HP、会員マイページの構築と並行して行い、引き続き検討を進めます。

(冊子体)

巻	月号	通巻号	特集題目案	奥付発行年月日	発行部数
78	5	853	イメージセンサを用いた可視光通信：光カメラ通信	2024年5月1日	2,700
78	7	854	A：生成AIの最新動向	2024年7月1日	2,700
			B：画像生成AIをめぐる法的・倫理的課題 (北海道/東北/北陸支部企画提案)		
78	9	855	音声合成技術の最前線	2024年9月1日	2,700
78	11	856	スマート農業・スマート漁業の最新動向	2024年11月1日	2,700
79	1	857	言語情報を視覚化する映像システム	2025年1月1日	2,700
79	3	858	イメージセンサ技術の最新動向	2025年3月1日	2,700

(2) 論文関係

①和文論文

和文論文編集委員会（委員長：安藤慎吾）において、オンラインジャーナルとして冊子体送本と同時期に全文を一般公開します。内容については、下記特集を予定しています。また、各研究委員会との連携を一層強化し、特集号の充実を図り、新たな試みを企画し、論文投稿数、掲載数の確保に努力します。さらにはX（旧Twitter）および学会Facebookにより、継続して論文募集を行います。

(オンラインジャーナル/投稿欄)

巻	月号	特集題目案	公開年月日
78	5	「映像表現とコンピュータグラフィックス」 ～映像表現・芸術科学フォーラム2023を中心に～	2024年5月1日
78	7	一般論文	2024年7月1日
78	9	一般論文	2024年9月1日
78	11	ディスプレイ-IDW'23を中心にー	2024年11月1日
79	1	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論論文（招待論文）	2025年1月1日
		短期査読論文特集	

79	3	一般論文	2025年3月1日
----	---	------	-----------

②英語論文 (MTA)

MTA 編集委員会 (委員長: 安藤慎吾) において, 会員のグローバルな研究発表の場としてオンラインジャーナル「ITE Transactions on Media Technology and Applications (略称, MTA)」を編集, 年4回発行し, 会誌発行日と同時期に全文を一般公開します. 内容については, 毎号特集を中心に企画し, 下記を予定しています. また, 新たな試みを企画し, 幅広く投稿勧誘を行うなど, 一定数以上の投稿数ならびに掲載数の確保に努力します. 2023年6月の Impact Factor 取得後も, MTA の引用数の増加と国際発進力の強化を引き続き行います.

Vol., No.	Special Section Title	公開年月日
Vol.11, No.3	Regular Section	2024年7月1日
Vol.11, No.4	IDW' 23	2024年10月1日
Vol.12, No.1	Technologies for Post-COVID 3D Media	2025年1月1日
	Fast-track Review	
Vol.12, No.2	Regular Section	2025年4月1日

③和文論文⇔英語論文相互翻訳の開始

和文・英文のいずれかで投稿され査読を経て採録・公開された論文を, もう一方の言語に翻訳してアーカイブ的な位置づけで公開し, 論文誌の活性化およびサーキュレーションの向上をはかる論文の相互翻訳を計画しています. 本施策は, メルマガ配信者, アカデミック登録学生, 直近1年間に和文誌・MTA へ論文投稿歴がある方を対象として実施した「論文誌の新施策等に関するアンケート」でも実施を希望する回答が多かったため, 開始に向けて準備を進めています. 和文論文誌2024年5月号で掲載となる著者の何名かにご協力を依頼してトライアルを行った上で, 問題がなければ2024年7月号の和文論文誌・MTA から本始動とする予定です.

(3) 大会講演予稿集の発行

①年次大会講演予稿集 (Webダウンロード版およびCD-R版) 作成.

参加予定人数: 250名

②冬季大会講演予稿集 (Webダウンロード版およびCD-R版) 作成.

参加予定人数: 250名

(4) 研究会資料「技術報告」の刊行

研究会資料「映像情報メディア学会技術報告」(オンライン版)を約40分冊発行します.

3. 調査研究活動 (定款 第4条 (3))

学会の最も基本的な活動である研究活動については、最近の急速な技術の進展に対処するため、例年以上に積極的に推進します。

技術委員会（委員長：相澤清晴）において、広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し、研究委員会の活動を統轄調整し、その円滑な運営をはかります。研究会の活性化についても、鋭意検討を進めます。研究活動を実施するための下記委員会を置きます。

研究委員会が開催する研究会は、会員が積極的に発表・討議に参加できるよう公開開催とします。参加費は2020年度より有料となりました。研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」は、2022年度をもって冊子体の作成・発行を終了し、2023年度よりオンライン配付に移行しました。

5月以降、現地開催、ハイブリッド開催、オンライン開催等の研究会開催形態を適宜選択し、実施することとします。

(1) <研究会年間予定>

「情報センシング研究会」委員長：池辺将之（北海道大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 6月 6日 ～ 7日	新潟	マルチメディアデータ・映像・画像・信号の取得・処理・解析・認証と応用	27件	20～30名
6月19日	東京	高機能イメージセンシングとその応用	未定	20～30名
8月	北海道	アナログ、アナデジ混載、RF 及びセンサインタフェース回路、低電圧/低消費電力技術、新デバイス・回路とその応用	未定	20～30名
9月	東京	イメージセンサ	未定	20～30名
11月	東京	国際会議 IWISS	未定	20～30名
2025年 2月	東京	赤外線センサ（赤外放射の応用関連学会）	未定	20～30名
3月	東京	固体撮像技術	未定	20～30名

「情報ディスプレイ研究会」委員長：中村篤志（静岡大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 8月	東京	ディスプレイ	未定	20～30名
9月	東京	立体映像およびホログラフィー、画像技術、VR/AR、ヒューマンファクター関連	未定	20～30名
11月	未定	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2025年 1月	未定	発光型・非発光型ディスプレイ	未定	20～30名
3月	未定	ディスプレイ技術シンポジウム	未定	20～30名

「マルチメディアストレージ研究会」委員長：木下延博（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 6月 6日 7日	宮城	記録システム・ヘッド・媒体	11	20～30名

10月	新潟	機能性材料・薄膜プロセス・材料・デバイス・スピントロニクス・固体メモリ	未定	20～30名
12月 5日 6日	愛媛	信号処理, ホログラム	未定	20～30名
2025年 2月	北海道	画像処理, 映像メディア	未定	20～30名

「放送技術研究会」委員長：村田英一（山口大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 6月 7日	東京	番組制作技術・送出技術	未定	20～30名
7月 25日 26日	北海道	放送現業技術・送受信技術, 移動受信技術	未定	20～30名
10月 3日 4日	北海道	放送・通信連携, システム実現技術, 近距離通信応用システム, 知的マルチメディア処理システム	未定	20～30名
10月18日	東京	放送設備見学会：フジテレビ	未定	20～30名
11月 7日 8日	四国	放送技術, 有線技術, 光技術等	未定	20～30名
2025年 1月 23日 24日	九州	アンテナ・伝搬, マイクロ波における学生若手発表	未定	20～30名
2月 20日 21日	大阪	学生・若手発表	未定	20～30名
3月 7日	沖縄	デジタル放送技術	未定	20～30名

「ヒューマンインフォメーション研究会」委員長：原澤賢充（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 6月 6日 7日	東京	人工現実感, エンタテインメント, メディアエクスペリエンス	未定	20～30名
11月	大阪	視聴覚の基礎と応用, VR 心理学, 感性情報処理	未定	20～30名
2025年 2月	未定	VR 心理, ヒューマン情報処理, 聴覚, 視覚, マルチモーダル	未定	20～30名
3月	オンライン	視聴覚情報処理, 視聴覚技術, ヒューマンインターフェース	未定	20～30名

「メディア工学研究会」委員長：村松正吾（新潟大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 6月 6日 7日	新潟	マルチメディアデータ・映像・画像・信号の取得・処理・解析・認証と応用	27件	20～30名
8月 22日 23日	富山	サマーセミナー（若葉研究者の集い）	未定	20～30名
9月	広島	マルチメディア通信/システム, ライフログ活用技術, IP 放送/映像伝送, メディアセキュリティ	未定	20～30名
10月	未定	画像・メディア処理技術	未定	20～30名
2025年 1月 6日 ～8日	杭州 (中国)	I W A I T 2 0 2 5	未定	20～30名
2月	北海道	画像処理, 映像メディア	未定	20～30名

2月	神奈川	学生研究発表会	未定	20～30名
----	-----	---------	----	--------

「映像表現&コンピュータグラフィックス研究会」委員長：名手久貴（東京工芸大）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 6月 5日	東京	画像一般（色再現，立体映像，CG，VR，アニメーション技術，画像処理，ME 関係，画像符号化）	未定	20～30名
9月	東京	立体映像およびホログラフィー，画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター関連	未定	20～30名
11月	未定	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2025年 1月 6日 ～8日	杭州 (中国)	I W A I T 2 0 2 5	未定	20～30名
2月	北海道	画像処理，映像メディア	未定	20～30名
3月	東京	映像表現・芸術科学フォーラム2025	未定	20～30名

「アントレプレナー・エンジニアリング研究会」委員長：上田哲三（パナソニック インダストリー）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 9月	東京	起業工学から見たイノベーションに関する研究2	未定	20～30名
2025年 3月	東京	起業工学から見たイノベーションに関する研究3	未定	20～30名

「立体メディア技術研究会」委員長：高木康博（東京農工大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 7月26日	東京	空間メディアコンファレンスシンポジウム	11	20～30名
9月	東京	立体映像およびホログラフィー，画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター関連	未定	20～30名
10月	東京	立体映像技術	未定	20～30名
10月	東京	画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター	未定	20～30名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2025年 3月	東京	立体の視覚・生体，コンテンツ，アプリケーション，立体映像技術	未定	20～30名

「スポーツ情報処理研究会」委員長：角田 貢（日体大）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 11月	北海道	スポーツ情報処理	未定	20～30名

4. 大会，講演会の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する大会を企画し，会員のみならず，広くわが国の技術レベルを高めるべく，適正規模で開催します。

(1) 2024年度年次大会（主催）

2024年8月28日～30日の3日間、かでの2.7（北海道立道民活動センター）において開催します。Zoomを併用したハイブリッド開催を予定しています。このための実行委員会（委員長 境田慎一／副会長）を置き、運営にあたります。

(2) 2024年度冬季大会（主催）

実行委員会（委員長 松田一朗／副会長）を置き、時期・場所の検討を進めるとともに、大会の運営にあたります。

5. 国際会議の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する国際会議に積極的に取り組み、国外との交流を図ります。

- (1) IEEEとMOU(Memorandum of Understanding)締結の継続により各研究委員会とIEEE JCとの連携開催に取り組みます。
- (2) KIBME(韓国メディア学会)とのジョイントセッションを2024年度年次大会の企画セッションとして開催します。
- (3) KIBME(韓国メディア学会)が2024年11月中旬に主催するKIBME FALL CONFERENCE 2024の基調講演を本会が担当します。
- (4) 第31回ディスプレイ国際ワークショップ(IDW2024)（共催）
2024年12月4日～6日の3日間、札幌コンベンションセンターにおいて、アメリカSIDと共催します。

6. ITEテストチャートの作成・頒布(定款 第4条(2))

ITEテストチャート委員会(委員長：日下部裕一)を中心に次の事業展開を行います。

- (1) 超高精細・広色域標準動画像小委員会(主査：松田一朗), ARIBと共同で超高精細・広色域標準動画像Dシリーズ(HFR：ハイフレームレート版, 8K120P, 240P)の検討を継続します。また、2022年4月に頒布を開始した「超高精細・広色域HDR版標準動画像 第2版」の普及に努めます。
- (2) 三次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会(主査：浜中邦基), ARIBと共同でオブジェクトベース標準音源については昨年度制作した「チャンネルチェック音源」の解説書の執筆を行い、早期の頒布開始を目指します。また、動的な評価音源については今年度の制作を予定します。

7. 図書の刊行・企画（定款 第4条（2）項）

編集委員会（編集長：亀山 渉）は、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化などを検討します。出版が困難な場合は、会員サービスとして、学会ホームページにて全文公開します。

8. 研究の奨励および業績の表彰（定款 第4条（5））

- (1) 学会賞関係

選奨委員会（委員長：境田慎一／副会長）において、本会にふさわしい選奨のありかた、選定方法等について検討を行います。その結論に基づき、丹羽高柳賞、技術振興賞、鈴木記念奨励賞、映像情報メディア未来賞の諸賞を選定し、贈呈いたします。また年次大会・冬季大会で優秀な講演を行った学生・高専生を対象に、それぞれの大会実行委員会で選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたします。研究会での発表を対象とした優秀発表は、各研究委員会が選定し、「優秀研究発表賞」を贈呈いたします。

- ①丹羽高柳賞：功績賞：2名以内
 - 〃 業績賞：2件以内
 - 〃 論文賞：3編以内
- ②鈴木記念奨励賞：5名以内
- ③技術振興賞：進歩開発賞（現場運用部門）：3件以内
 - 〃 進歩開発賞（研究開発部門）：3件以内
 - 〃 コンテンツ技術賞：3件以内
- ④映像情報メディア未来賞：3件以内
- ⑤学生優秀発表賞：年次大会：5件以内
 - 〃 冬季大会：5件以内
- ⑥優秀研究発表賞：10件～15件程度

（2）フェロー会員の認定

フェロー選定委員会（委員長：松田一朗／副会長）において、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された正会員の中から、フェロー選出規程第13条第1項「単年度に選出されるフェロー会員数については、正会員および名誉会員の合計数の0.2%程度を上限とする。」に基づき、フェロー会員を認定します。

9. 青少年および社会に対する啓発普及（定款 第4条（7））

一般市民も対象にした公開講演会（入場無料）の開催を、2024年年次大会行事として検討しています。また、2024年冬季大会においても、一般向け公開講演会等の開催を検討いたします。

10. 会議および委員会等（定款 第4条（8））

- （1）第71回定時社員総会：2025年5月30日（金）開催
- （2）理事会：6月・7月・10月・12月・1月・3月・4月・5月の8回開催
 - （年3回、会長が指名する代表代議員の参加を予定、また支部長にはオンラインによる参加を要請）
- （3）広報委員会：随時開催
- （4）編集関係委員会
 - ①編集委員会（企画委員会）：年7回開催
 - ②同（年次企画委員会）：年3回開催

- ③同（海外文献部門委員会）：文献調査はメール審議で行い，議案があれば委員会を開催
- ④同（ニュース部門委員会）：記事選定のみの場合はメール審議，議案があれば委員会を開催
- (5) 論文委員会（和文論文運営委員会，英語論文運営委員会）：6月・10月・2月の3回開催
- (6) 技術委員会：4月～3月の期間に3回～4回開催
- (7) 選奨関係委員会
 - ①選奨委員会：第1回会議を11月に開催し，前年度申継事項および諸課題を検討
 - ②「技術振興賞」進歩開発賞（現場運用部門）・（研究開発部門）選考専門部会：3月に開催
 - ③「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会：3月に開催（地方開催予定）
 - ④「映像情報メディア未来賞」選考専門部会：3月に開催
 - ⑤「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞・論文賞の選考
 - ※功績賞・業績賞は推薦件数により1回または2回投票，論文賞は1回投票
 - ⑥「鈴木記念奨励賞」の選考（2回投票）
- (8) フェロー選定委員会：2回開催（推薦締切を12月末，第1回委員会は1月開催予定）
- (9) テストチャート委員会：随時開催
- (10) 国際連携委員会
 - ①2024年年次大会「KIBMEとのジョイントセッション」開催
 - ②その他，海外学会との交流
- (11) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会：随時開催
- (12) 長期計画検討委員会：随時開催
- (13) 電気・情報関連学会連絡協議会：7月と1月の年2回開催

以上

2024年度予算報告書

自 2024年 4月 1日

至 2025年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

収支予算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人映像情報IT7学会

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	25,000	25,000	0
基本財産受取利息	25,000	25,000	0
特定資産運用益	400,000	400,000	0
特定資産受取利息	400,000	400,000	0
受取入金	20,000	20,000	0
受取入金	20,000	20,000	0
受取会費	45,765,000	46,340,000	-575,000
正学維持会費	23,500,000	23,500,000	0
維持会費	20,625,000	21,100,000	-475,000
特種会費	600,000	660,000	-60,000
7カテミツハート+事業	1,040,000	1,080,000	-40,000
事業収益	14,910,000	21,517,000	-6,607,000
会誌関係収入	3,500,000	3,687,000	-187,000
年次頒布収入	750,000	900,000	-150,000
冬季大会収入	2,000,000	3,000,000	-1,000,000
講習大会収入	1,200,000	1,200,000	0
研究収入	260,000	710,000	-450,000
技術報告収入	2,000,000	2,000,000	0
図書関係収入	1,500,000	2,500,000	-1,000,000
収入	0	0	0
ネット収入	3,700,000	7,520,000	-3,820,000
受取寄付金	500,000	500,000	0
発展事業寄付金	500,000	500,000	0
雑収入	201,000	201,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
雑収入	200,000	200,000	0
経常収益計	61,821,000	69,003,000	-7,182,000
(2) 経常費用			
事業費	54,416,600	53,107,200	1,309,400
給料手当	21,338,800	18,938,500	2,400,300
派遣賃金	715,000	693,000	22,000
福利厚生費	2,274,700	2,274,800	-100
旅交通費	830,000	680,000	150,000
通信費	2,556,000	3,062,500	-506,500
消耗品費	1,206,000	1,234,600	-28,600
修繕費	50,000	50,000	0
印刷製本費	6,527,900	8,770,000	-2,242,100
賃借料	5,617,000	5,741,000	-124,000
支払利息	569,900	633,200	-63,300
諸会費	1,000,000	1,167,000	-167,000
支払謝金	910,000	860,000	50,000
支払負担金	1,110,000	920,000	190,000
支払助成金	50,000	10,000	40,000
支払告知費	328,000	290,000	38,000
委託託書費	6,232,000	4,607,000	1,625,000
雑費	920,000	970,000	-50,000
法人税等	181,300	205,600	-24,300
管理費	2,000,000	2,000,000	0
給料手当	22,365,200	23,917,800	-1,552,600
派遣賃金	9,083,300	8,061,600	1,021,700
退職給付費用	600,000	500,000	100,000
福利厚生費	0	0	0
旅交通費	925,200	925,200	0
通信費	192,000	332,000	-140,000
消耗品費	128,000	287,500	-159,500
修繕費	225,000	350,400	-125,400
賃借料	225,000	350,400	-125,400
支払利息	50,000	255,000	-205,000
諸会費	1,508,100	1,508,100	0
支払利息	330,000	366,700	-36,700
諸租税	180,000	200,000	-20,000
支払会費	100,000	100,000	0
支払告知費	1,364,000	1,291,000	73,000
支払負担金	0	350,000	-350,000
支払告知費	8,000	328,000	-320,000
委託託書費	4,420,000	5,045,000	-625,000
雑費	151,600	467,300	-315,700
Web費	1,900,000	2,200,000	-300,000
役員管理費	450,000	600,000	-150,000
法展事業資金	250,000	250,000	0
法人税	500,000	500,000	0
経常費用計	76,781,800	77,025,000	-243,200
評価損益等調整前当期経常増減額	-14,960,800	-8,022,000	-6,938,800
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-14,960,800	-8,022,000	-6,938,800
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-14,960,800	-8,022,000	-6,938,800
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	-14,960,800	-8,022,000	-6,938,800
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	-14,960,800	-8,022,000	-6,938,800

収支予算書内訳表

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人映像情報メディア学会

科 目	実施事業				その他会計(収)		
	会誌関係事業	研究会関係事業	表彰、コンクール	共通	技術報告関係	図書関係	ウェブサイト関係
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用受益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用受益	140,000	80,000	60,000	0	0	0	0
受取入金	140,000	80,000	60,000	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0						

(単位：円)

会誌頒布	共通	その他会計(公)				法人会計	本部合計	支部合計	内部消去 一般事業	合計
		年次大会	冬季大会	講演会	共通	法人会計				
0	0	0	0	0	0	25,000	25,000	0	0	25,000
0	0	0	0	0	0	25,000	25,000	0	0	25,000
0	0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	45,765,000	45,765,000	0	0	45,765,000
0	0	0	0	0	0	23,500,000	23,500,000	0	0	23,500,000
0	0	0	0	0	0	20,625,000	20,625,000	0	0	20,625,000
0	0	0	0	0	0	600,000	600,000	0	0	600,000
0	0	0	0	0	0	1,040,000	1,040,000	0	0	1,040,000
750,000	0	2,000,000	1,200,000	0	0	0	14,650,000	5,902,000	-5,642,000	14,910,000
0	0	0	0	0	0	0	3,500,000	0	0	3,500,000
750,000	0	0	0	0	0	0	750,000	0	0	750,000
0	0	2,000,000	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	1,200,000	0	0	0	1,200,000	0	0	1,200,000
0	0	0	0	0	0	0	0	260,000	0	260,000
0	0	0	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	0	0	0	0	1,500,000	0	0	1,500,000
0	0	0	0	0	0	0	3,700,000	0	0	3,700,000
0	0	0	0	0	0	0	0	5,612,000	-5,612,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	-30,000	0
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	201,000	201,000	0	0	201,000
0	0	0	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
0	0	0	0	0	0	200,000	200,000	0	0	200,000
750,000	0	2,000,000	1,200,000	0	0	46,631,000	61,561,000	5,902,000	-5,642,000	61,821,000
0	8,386,000	1,744,000	844,000	0	11,631,200	0	51,753,600	2,663,000	0	54,416,600
0	6,373,300	0	0	0	9,064,200	0	21,338,800	0	0	21,338,800
0	0	150,000	70,000	0	0	0	715,000	0	0	715,000
0	650,200	0	0	0	924,800	0	2,274,700	0	0	2,274,700
0	0	320,000	10,000	0	0	0	400,000	430,000	0	830,000
0	7,900	60,000	40,000	0	11,200	0	2,446,000	110,000	0	2,556,000
0	0	200,000	130,000	0	0	0	916,000	290,000	0	1,206,000
0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	0	50,000
0	8,400	10,000	10,000	0	11,900	0	6,472,900	55,000	0	6,527,900
0	545,700	400,000	150,000	0	776,100	0	5,617,000	0	0	5,617,000
0	91,200	0	0	0	129,700	0	569,900	0	0	569,900
0	0	250,000	130,000	0	0	0	730,000	270,000	0	1,000,000
0	0	200,000	200,000	0	0	0	600,000	310,000	0	910,000
0	0	0	0	0	0	0	200,000	910,000	0	1,110,000
0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000
0	0	44,000	44,000	0	0	0	328,000	0	0	328,000
0	0	60,000	50,000	0	0	0	6,004,000	228,000	0	6,232,000
0	0	0	0	0	0	0	920,000	0	0	920,000
0	9,300	50,000	10,000	0	13,300	0	171,300	10,000	0	181,300
0	700,000	0	0	0	700,000	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	0	0	0	25,268,200	25,268,200	3,239,000	-5,642,000	22,865,200
0	0	0	0	0	0	9,083,300	9,083,300	0	0	9,083,300
0	0	0	0	0	0	600,000	600,000	0	0	600,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	925,200	925,200	0	0	925,200
0	0	0	0	0	0	10,000	10,000	182,000	0	192,000
0	0	0	0	0	0	18,000	18,000	110,000	0	128,000
0	0	0	0	0	0	170,000	170,000	55,000	0	225,000
0	0	0	0	0	0	50,000	50,000	0	0	50,000
0	0	0	0	0	0	1,508,100	1,508,100	0	0	1,508,100
0	0	0	0	0	0	330,000	330,000	0	0	330,000
0	0	0	0	0	0	180,000	180,000	0	0	180,000
0	0	0	0	0	0	100,000	100,000	0	0	100,000
0	0	0	0	0	0	455,000	455,000	909,000	0	1,364,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	8,000	8,000	0	0	8,000
0	0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000	1,920,000	0	4,420,000
0	0	0	0	0	0	88,600	88,600	63,000	0	151,600
0	0	0	0	0	0	1,900,000	1,900,000	0	0	1,900,000
0	0	0	0	0	0	450,000	450,000	0	0	450,000
0	0	0	0	0	0	6,142,000	5,642,000	0	-5,642,000	0
0	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	250,000
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	8,386,000	1,744,000	844,000	0	11,631,200	25,268,200	77,021,800	5,902,000	-5,642,000	76,781,800
750,000	-8,386,000	256,000	356,000	0	-11,631,200	21,362,800	-15,460,800	0	0	-14,960,800
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
750,000	-8,386,000	256,000	356,000	0	-11,631,200	21,362,800	-15,460,800	0	0	-14,960,800
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
750,000	-8,386,000	256,000	356,000	0	-11,631,200	21,362,800	-15,460,800	0	0	-14,960,800
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
750,000	-8,386,000	256,000	356,000	0	-11,631,200	21,362,800	-15,460,800	0	0	-14,960,800

2024年度 予算-支部合算一

(単位:円)

科 目	要求合計額	備 考
I. 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
本部交付金	5,612,000	
研究会等補助金収入	30,000	
事業収入	260,000	
連合大会	0	
講習会収入	260,000	
講演会収入	0	
見学会収入	0	
年次大会	0	
雑収入	0	
連合大会繰入金	0	
事業活動収入計	5,902,000	
2. 事業活動支出		
事業費支出	2,663,000	
連合関係費	760,000	
講習会費	110,000	
講演会費	695,000	
見学会費	240,000	
研究会費	130,000	
年次大会費	200,000	
支部ホームページ	145,000	
その他事業費	383,000	
管理費支出	3,239,000	
交通費	182,000	
通信費	110,000	
消耗品費	55,000	
会議費	43,000	
総会費	296,000	
役職会費	175,000	
支部長会議費	395,000	
委託経費	1,920,000	
雑費	63,000	
事業活動費支出計	5,902,000	
事業活動収支差額	0	
II. 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
各種基金取崩収入	0	
引当金戻入収入	0	
発展事業資金収入	0	
投資活動収入計	0	
2. 投資活動支出		
各種基金取得支出	0	
引当金繰入支出	0	
発展事業資金繰入支出	0	
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入	0	
2. 財務活動支出	0	
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出	0	
当期予算収支差額	0	
前期繰越予算収支差額	0	
次期繰越予算収支差額	0	

2024年度 予算-支部明細

	2023年(参考)	550,000	484,000	東海400,000 北陸320,000	2,980,000	400,000
科 目	北海道	東北	東海北陸	関西	中国	
I. 事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
本部交付金	550,000	653,000	620,000	2,480,000	400,000	
研究会等補助金収入	0	0	0	30,000	0	
事業収入	0	0	0	260,000	0	
連合大会	0	0	0	0	0	
講習会収入	0	0	0	260,000	0	
講演会収入	0	0	0	0	0	
見学会収入	0	0	0	0	0	
年次大会	0	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	0	
連合大会繰入金	0	0	0	0	0	
事業活動収入計	550,000	653,000	620,000	2,770,000	400,000	
2. 事業活動支出						
①事業費支出	350,000	468,000	395,000	680,000	180,000	
連合関係費	50,000	130,000	70,000	200,000	150,000	
講習会費	0	10,000	0	100,000	0	
講演会費	250,000	110,000	55,000	100,000	0	
見学会費	0	40,000	200,000	0	0	
研究会費	0	10,000	0	0	0	
年次大会費	50,000	100,000	0	0	0	
支部ホームページ	0	5,000	0	140,000	0	
その他事業費	0	63,000	70,000	140,000	30,000	
②管理費支出	200,000	185,000	225,000	2,090,000	220,000	
交通費	0	2,000	60,000	0	30,000	
通信費	20,000	10,000	5,000	10,000	10,000	
消耗品費	25,000	5,000	5,000	0	10,000	
会議費	0	3,000	0	30,000	0	
総会費	15,000	54,000	80,000	60,000	55,000	
役職会費	15,000	5,000	25,000	70,000	40,000	
支部長会議費	120,000	100,000	35,000	0	55,000	
委託経費	5,000	3,000	15,000	1,880,000	10,000	
雑費	0	3,000	0	40,000	10,000	
事業活動支出計	550,000	653,000	620,000	2,770,000	400,000	
事業活動収支差額	0	0	0	0	0	
II. 投資活動収支の部						
1. 投資活動収入						
各種基金取崩収入	0	0	0	0	0	
引当金戻入収入	0	0	0	0	0	
発展事業資金戻入収入	0	0	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	0	0	
2. 投資活動支出						
各種基金取得支出	0	0	0	0	0	
引当預金繰入支出	0	0	0	0	0	
発展事業資金繰入支出	0	0	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	0	0	
III. 財務活動収支の部						
1. 財務活動収入	0	0	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	
IV. 予備費支出	0	0	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	0	0	
次期繰越金	0	0	0	0	0	
収支差額	0	0	0	0	0	

2023年度役員・委員等名簿

(2024年3月31日現在)

注) 氏名欄の「→」は、任期中の交代を示す。

(1) 役員・代議員

*印：代表代議員

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
会長	児玉圭司	N H K	代議員	河合吉彦	N H K
次期会長	鈴木木教	日立総合計画研究所	〃	川田亮一	KDDI総合研究所
副会長	苗村健一	東京大学	〃	倉掛卓理	N H K
〃	境田慎一	N H K	〃	黒田理人	東北大学
〃	吉田俊一	福井大学	〃	児玉圭司	N H K
編集長	森本雅和	兵庫県立大学	〃*	坂井剛	九州朝日放送
総務担当	谷口行信	東京理科大学	〃	笹井晋	放送サービス高度化推進協会
〃	山下誉彦	N H K	〃	塩入聡哉	東北大学
会計担当	樋口晴彦	日立	〃	志水信哉	N T T
〃	上原伸一	A G C	〃	芹川聖一	九州工業大学
調査担当	坂東幸浩	N T T	〃	高岡幸翔	N H K金沢
〃	笹出晋司	放送サービス高度化推進協会	〃	高橋行仁	北海道大学
編集担当	加藤晴久	KDDI総合研究所	〃	谷口松志	東京理科大学
〃	河合吉彦	N H K	〃*	近塚田敏彦	中京テレビ
企画担当	小池崇文	法政大学	〃*	塚田合秀	愛知工業大学
〃	和泉田智志	日本テレビ	〃*	徳富苗一	富山大学
監事	秋田純一	金沢大学	〃	吉村岳大	東京工業大学
〃	池田哲臣	NHKテクノロジー	〃	苗村岳大	東京工業大学
代議員	川前慎吾	デジタルズ	〃	永手野中	東京工業大学
〃	安藤野茂	湘南工科大学	〃	名手野中	東京芸大
〃	浅池将哲	N H K福島	〃*	野橋本	テレビ愛媛
〃	池田将哲	北海道	〃	橋本直己	電気通信大学
〃	石鍋隆宏	NHKテクノロジー	〃	榎山正賢	テレビ新広島
〃	和泉田智志	東北大学	〃	平田正賢	朝日放送
〃	伊丹誠和	東京理科大学	〃	町田司	N H K
〃	岩城正哲	N H K	〃*	松宮大介	毎日放送
〃	上田三一	パナソニックインダストリー	〃	宮崎勝一	大阪公立大学
〃	大川裕司	A G C	〃	村松英一	N H K
〃	大島進彦	N H K	〃	村松一吾	山口大学
〃	奥浦孝彦	N H K	〃	山下博俊	新潟大学
〃	掛谷紀興	N H K	〃	山横吉	N H K
〃	片野興久	筑波大学	〃		テレビ北海道
〃	加藤晴久	北海道文化放送	〃		福井大学
〃		KDDI総合研究所			

(2) テストチャート委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	日下部裕一	N H K	委員	樋口晴彦	日立
代表幹事	笹出晋司	放送サービス高度化推進協会	〃	小池崇文	法政大学
委員	加藤晴久	KDDI総合研究所	〃	岩鼻幸男	事務局長

(3) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	吉田俊一	福井大学	委員	坂東幸浩	N T T
代表幹事	上原伸一	A G C	〃	笹出晋司	放送サービス高度化推進協会
委員	樋口晴彦	日立	〃	加藤晴久	KDDI総合研究所

(4) 広報委員会 (WebIT化委員会統合)

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	境田慎一	N H K	委員	樋口晴彦	日立
代表幹事	和泉田智志	日本テレビ	〃	秋田純一	金沢大学

(5) 国際連携委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長 代表幹事	和泉田 智志 秋田 純一	日本テレビ 金沢大学	委員 "	山下 誉行 加藤 晴久	N H K KDDI 総合研究所

(6) 長期計画検討委員会 (学会活性化委員会統合)

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長 代表幹事 委員	滝 嶋 康 弘 山下 誉行 樋口 晴彦	KDDI 総合研究所 N H K 日立	委員 "	和泉田 智志 上原 伸一	日本テレビ A G C

(7) 代議員選挙委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長 委員	伊藤 崇之 会津 昌夫	N H K 財 団 リ ア ン	委員 "	本間 康文 岩鼻 幸男	N E C 事務局 長

(8) 電気・情報関連学会連絡協議会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員	山下 誉行	N H K	委員	樋口 晴彦	日立

(9) フェロー選定委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長 副委員長 幹事 委員 (代議員) " (研究委員会) " "	境 田 慎 一 森本 雅和 樋口 晴彦 近松 仁志 辻合 秀一 野中 宏次 池辺 将之 石鍋 隆宏 町田 賢司	N H K 兵庫 県立 大 学 日 立 中 京 テ レ ビ 富 山 大 学 テ レ ビ 愛 媛 北 海 道 大 学 北 東 大 学 N H K	委員 " " " " " (フェロー) "	村 田 英 一 原澤 賢 充 村松 正 吾 名手 久 貴 上掛 田 哲 英 掛谷 三 紀 角 田 貢 郎 甲 藤 二 郎 山 内 結 子	山 口 大 学 N H K 新 潟 大 学 東 京 工 芸 大 学 パナソニックインダストリー 筑 波 大 学 日 本 体 育 大 学 早 稲 田 大 学 電 波 産 業 会

(10) 名誉会員

氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
泉 武 博 伊 東 晋 岩 崎 俊 一 内 田 龍 男 江 藤 良 純 榎 並 和 雅 大 久 保 榮 彌 奥 田 友 彌 小 沢 慎 治	小野寺 正雄 金 出 武 雄 久保田 啓一 沢 辺 栄 一 末 松 安 晴 関 畑 文 雄 高 武 田 康 嗣 谷 岡 健 吉	谷 本 正 幸 寺 西 信 一 永 井 研 二 中 嶋 正 之 中 村 宏 久 中 村 慶 台 西 澤 久 次 西 山 一 伸 長 谷 川	長谷川 豊明 羽 鳥 好 律 濱 崎 襄 二 林 崎 宏 三 原 島 敬 博 吹 拔 敬 彦 村 上 仁 己 森 尾 稔 浩 安 田 浩 浩	矢 野 薫 山 田 宰 山 本 英 雄 吉 野 武 彦 Om. P. khushu Carlos A. Paz de Araújo

(11) 北海道支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長 庶務幹事 " 会計幹事 " 運営委員	横 井 博 士 樹 山 英 則 瀧 口 和 輝 加 藤 慎 太 郎 木 村 敏 文 青 山 智 一	テ レ ビ 北 海 道 北 海 道 テ レ ビ N H K 札 幌 札 幌 テ レ ビ 北 海 道 放 送 N H K 札 幌	運営委員 " " "	土 橋 宜 典 三 浦 裕 之 池 田 修 和 田 直 史 長 尾 友 夫	北 海 道 大 学 北 海 道 文 化 放 送 テ レ ビ 北 海 道 北 海 道 科 学 大 学 総 務 省 北 海 道 総 合 通 信 局

(12) 東北支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	今野 徳男	N H K 仙台	運営委員	柏崎 幹夫	東北総合通信局
庶務幹事	金 義	東北学院大学	〃	鈴木 辰彦	東北テレビジョン通信
〃	佐々木 剛	N H K 仙台	〃	加藤 純	ダイヤモンドパーソナル
会計幹事	芝田 正	東北放送	〃	嵯峨 泉	仙台放送
〃	塩谷 達夫	N H K 仙台	〃	加藤 毅	宮城テレビ放送
運営委員	藤掛 英一	東北大学	〃	高山 勝	東日本放送
〃	田中 一郎	東北大学	〃	山形 拓	青森テレビ
〃	塩入 諭人	東北大学	〃	須原 秀敏	秋田テレビ
〃	黒田 理栄	東北大学	〃	原 敏	岩手朝日テレビ
〃	工藤 亮博	東北工業大学	〃	峰 田	山形放送
〃	木戸 博聡	東北工業大学	〃	星 宗野	福島テレビ
〃	鳧 田	日本大	〃	浅	N H K 仙台

(13) 北陸支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	高岡 英幸	N H K 金沢	運営委員	吉高 淳夫	北陸先端科学技術大学院大学
庶務幹事	辻合 秀一	富山大学	〃	齋藤 哲也	N T T 西日本
〃	阿部 雅夫	N H K 金沢	〃	北出 伸司	北陸放送
会計幹事	東海 彰吾	福井大学	〃	柳原 伸	富山テレビ
〃	中村 俊之	N H K 富山	〃	山本 秀実	北日本放送
運営委員	高松 衛一	富山大学	〃	中野 秀之	N H K 金沢
〃	秋田 純美	金沢大学	〃	大須賀 弘	N H K 福井
〃	長田 美	金沢工業大			

(14) 東海支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	藤井 俊彰	名古屋大学	運営委員	守山 正巳	N H K 名古屋
庶務幹事	祖父江 貴彦	N H K 名古屋	〃	宗政 幹彦	総務省東海総合通信局
〃	中野 誠一	総務省東海総合通信局	〃	近松 仁志	中京テレビ
会計幹事	大日川 聡	C B C テレビ	〃	塚田 敏彦	愛知工業大学
〃	西川 和宏	N H K 名古屋	〃	塚田 愛一郎	名城大学
運営委員	青木 徹	静岡大学	〃	村田 博司	三重大学
〃	石橋 豊春	名古屋工業大学	〃	天野 景之隆	テレビ愛知
〃	服部 利正	日本CATV技術協会	〃	筒井 宏彦	名古屋テレビ
〃	白井 哲嗣	東海テレビ	〃	小林 和彦	静岡放送
〃	田村	岐阜大	〃	櫻井 正司	C B C テレビ

(15) 関西支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	酒澤 茂之	大阪工業大学	運営委員	岩本 祐太郎	大阪電気通信大学
庶務幹事	平田 正信	朝日放送テレビ	〃	金城 信彦	N H K 大阪
〃	富吉 暎	シャープ	〃	森本 雅和	兵庫県立大学
会計幹事	松井 繁	毎日放送	〃	國末 勝次	パナソニックコネク
〃	杜 偉	京都工芸繊維大学	〃	関口 正巳	住友電気工業
運営委員	宮崎 大介	大阪公立大学	〃	Siriaraya Panote	京都工芸繊維大学
〃	中屋敷 安則	総務省	〃	宮本 伸一	和歌山大学
〃	小野木 晋助	讀賣テレビ	〃	福田 雅哉	毎日放送
〃	松岡 泰	関西テレビ	〃	浦西 友樹	大阪大
〃	中谷 信大	朝日放送テレビ			

(16) 中国支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	山内 仁	岡山県立大学	運営委員	大島 進	NHK広島
庶務幹事	檜垣 徹	広島大学	〃	高橋 賢	広島市立大学
〃	鳴海 哲	NHK広島	〃	林田 秋	山口朝日放送
会計幹事	加藤 雅	広島テレビ	〃	佐原 浩	RSK山陽放送
〃	湯藤 慎	NHK広島	〃	小平 俊	広島ホームテレビ
運営委員	高尾 忍	山陰中央テレビジョン放送	〃	小檜 欣	テレビ新広島
〃	原 彰	中国総合通信局	〃	鈴木 健	テレビ山口
〃	春井 達	日本海テレビジョン放送	〃	尾関 孝	福山大放送
〃	増原 一	NHKテクノロジーズ	〃	恵良 勝	山口放送
〃	谷岡 昭	中国放送	〃	小原 敏	岡山放送
〃	道西 博	岡山理科大学	〃	青山 秀	山陰放送

(17) 四国支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	奥浦 孝彦	テレビ愛媛	運営委員	野中 宏次	テレビ愛媛
庶務幹事	重岡 知憲	NHK松山	〃	島矢 勝久	あいテレビ
〃	今西 勝規	テレビ愛媛	〃	今西 勝	愛媛朝日テレビ
会計幹事	木下 雄介	NHK松山	〃	松岡 茂	高知放送
会計監査	東 政幸	総務省四国総合通信局	〃	横山 雄一	テレビ高知
運営委員	東 政幸	総務省四国総合通信局	〃	高嶋 健吾	高知さんさんテレビ
〃	岡本 好弘	愛媛大学	〃	高原 祐紀	四国放送
〃	乗松 義弘	南海放送	〃	岩井 芳敏	西日本放送

(18) 九州支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	川 聖一	九州工業大学	運営委員	加藤 剛	NHKテクノロジーズ
庶務幹事	松岡 剛志	九州産業大学	〃	萩原 秀一郎	NTT西日本
〃	新井 宏和	NHK福岡	〃	東條 悟	九州総合通信局
会計幹事	戸高 昭二	福岡放送	〃	筒口 志拳	崇城大学
〃	松本 昭宏	NHK福岡	〃	佐藤 雄一	熊本放送
運営委員	井上 勝平	九州大学	〃	藤本 孝	長崎放送
〃	杉浦 光直	NHK福岡	〃	松崎 文功	長崎放送
〃	山下 清海	RKB毎日放送	〃	鹿嶋 雅重	鹿児島放送
〃	坂井 剛	九州朝日放送	〃	小川 重訓	南日本放送
〃	岩屋 宏	テレビ西日本	〃	岩元 和也	宮崎放送
〃	小野 晃生	TVQ九州放送	〃	後藤 昌弘	大分放送

(19) 技術委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	相澤清晴	東京大学	委員	金森聡史	N E C
幹事	滝嶋康弘	早稲田大学	〃	吉田大	北海道大学
〃	笹出晋司	放送サービス高度化推進協会	〃	池辺大将	東北大学
〃	加藤晴久	KDDI総合研究所	〃	石鍋隆賢	N H K
特別理事	森本雅和	兵庫県立大学	〃	町田英一	山口大学
委員	樋口晴彦	N T T	〃	村澤賢一	N H K
〃	坂東幸浩	N T T	〃	原松正吾	新潟大学
〃	小池崇文	N H K	〃	村手久哲	東京工芸大学
〃	倉掛卓也	N H K	〃	名田哲英	パナソニックインダストリー
〃	児玉和也	国立情報学研究所	〃	上掛三紀	筑波大学
〃	小林達也	KDDI総合研究所	〃	谷田英	日本体育大学
〃	小平雅之	T B S テレビ	〃	角田	

<研究委員会>

(20) 情報センシング研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	池辺将之	北海道大学	委員	浄法寺佑	浜松ホトニクス
幹事	小室和孝	埼玉大学	〃	白髭大久	キヤノン
〃	下村和弘	立命館大学	〃	樽木大久	東芝デバイス&ストレージ
〃	香川景一郎	静岡大学	〃	大澤雅征	オリンパスメディカルシステムズ
〃	徳田嵩人	東京工業大学	〃	大藤高徳	シーマイク
〃	黒田理人	東北大学	〃	佐藤大	三菱電機
〃	山下哲哉	N H K	〃	立川法	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	山下雄一郎	T S M C	〃	韓立相	ニコン
〃	大倉俊介	立命館大学	〃	安山富	ブリルニクスジャパン
委員	竹本良章	メムスコ	〃	山田啓	静岡岡大学
〃	難波正和	N H K	〃	八重樫浩	パナソニックインダストリー
〃	八重樫浩	ティアテック			

(21) メディア工学研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	村松正吾	新潟大学	委員	平野晃昭	関東学院大学
副委員長	東海彰吾	福井大学	〃	細井利憲	N E C
幹事	望月貴裕	N H K	〃	人見康宣	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	田良島周平	NTTコミュニケーションズ	〃	小池崇文	三菱電機
委員	紺野剛史	富士通	〃	小幡朋和	コニカミノルタ
〃	奥田正浩	北九州市立大学	顧問	春日作男	作新学院大学
〃	金成昌慧	宇都宮大学	〃	大塚佳一	国際高等専門学校
〃	多田昌裕	近畿大学	〃	外村佳仁	龍谷大学
〃	青木義満	慶應義塾大学	〃	貴倉一志	東京都立大学
〃	伊藤康一	東北大学	〃	上倉俊一	東京工芸大学
〃	河村圭修	KDDI総合研究所	〃	吉田和	福井大学
〃	渡邊修弘	拓殖大学	〃	村上山	愛知県立大学
〃	小川貴弘	北海道大学	〃	長谷川	北海道大学
〃	曾我麻佐子	龍谷大学	〃	田川	東京都立大学
〃	横井謙太郎	東芝インフラシステムズ	〃	新井啓	日本工業大
〃	入部百合絵	愛知県立大学			

(22) マルチメディアストレージ研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	町田賢司	N H K	委員	多田行伸	日立LGデータストレージ
幹事	武者敦史	富士フイルム	〃	関口伸通	NECネットエスアイ
〃	吉村哲典	秋田大学	〃	大竹充光	横浜国立大学
〃	加藤大	N H K	〃	中輝光	九州大学
〃	本間典聡	山梨大学			

(23) 情報ディスプレイ研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	石鍋隆宏	東北大学	委員	佐藤弘人	N H K
副委員長	中村篤志	静岡岡大学	〃	沼尾孝次	東北大学
幹事	山口雅浩	東京工業大学	〃	藤掛英史	東北大学
〃	吉田茂人	シャープ	〃	小澤芳朗	N T K
〃	奥山健太郎	ジャパンディスプレイ	〃	小平野邦	N H K
〃	薄井武順	N H K	〃	根尾陽一郎	静岡大電機
〃	長谷川拓哉	東北大学	〃	長瀬章裕	三菱電機
〃	樋口昌芳	物質・材料研究機構	〃	関小秀	八戸工業大学
〃	工藤幸寛	工学院大学	〃	小宮俊裕	パナソニック
委員	木村宗弘	長岡技術科学大学	〃	下田哲哉	東北工業大学
〃	馬場雅裕	東芝	〃	栗田泰剛	N H K
〃	奥田悟嵩	三菱電機	〃	伊藤啓二	東芝
〃	藤崎好英	N H K	〃	石染井谷	N H K
〃	別井圭一	日立	〃	平田潤樹	N H K
〃	中嶋宜樹	N H K	〃	廣田昇一	東芝
〃	足立昌哉	ジャパンディスプレイ	〃		新神戸電機

(24) 放送技術研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	村田英一	山口大学	(無線光)	岩瀬宗彦	住友電気工業
副委員長	大槻一博	N H K	〃	岡田実	奈良先端科学技術大学院大学
〃	橋本靖	フジテレビ	〃	荻原秀治	日本電業工業
幹事	松崎敬文	N H K	〃	グアンチャイユ	長崎大学
幹事補佐	當山俊一郎	日本テレビ	〃	齊藤一幸	千葉大学
〃	宮坂宏明	N H K	〃	三枝健二	日本大学
幹事	宮野真由子	東芝インフラシステムズ	〃	田邊暁樹	N T T
〃	内田慎史	TBSテレビ	〃	仲田広猛	日立国際電気
幹事補佐	金森聡	N E C	〃	丸山悠人	古河電気工業
幹事員	水本哲裕	日本学術振興会	(放送現業)	安藤悠圭	フジテレビ
委員	岩崎裕江	東京農工大学	〃	長田介	名古屋テレビ
(放送・通信方式)	木村亜紀	三菱電機	〃	小野木晋二	読売テレビ
〃	塩川茂樹	神奈川工科大学	〃	佐藤誠高	テレビ朝日
〃	杉山賢二	成蹊大学	〃	鈴村高政	N H K
〃	筒井弘聡	北海道大学			
〃	中村啓之	神奈川大学			
〃	濱住大貴	福井工業高等専門学校			
〃	福留大	N H K			

(25) ヒューマンインフォメーション研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	原澤賢充	N H K	〃	小濱剛	近畿大学
幹事	相田紗織	山口大学	〃	森川大輔	富山県立大学
〃	荻谷光晴	神奈川大学			

(26) スポーツ情報処理研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	角田 貢	日本体育大学	〃	渡辺 裕	早稲田大学
副委員長	北原 格	筑波大学	〃	野村 一	全国特別支援学校長会「みんなdeスポーツ推進委員会」
幹事	三ッ峰 秀樹	NHK財団	〃	堀尾 哲也	日本体育大学
〃	春山 知生	NTTドコモ	〃	堀高 翔也	北海道大学
〃	三上 弾	工学院大学	〃	高白 和也	日本体育大学
委員	田川 憲男	東京都立大学			
〃	高橋 正樹	NHK			

(27) 映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	名手 久貴	東京工芸大学	委員	林森 正樹	ウプサラ大学
副委員長	久保 尋人	千葉大学	〃	谷友 昭	東京電機大学
幹事	岡市 直人	NHK	〃	中山 裕	朝日放送
〃	田中 賢一	長崎総合科学大学	〃	山口 健信	日本大学
〃	Roberto Lopez-Gullier	立命館大学	顧問	小杉 甲	京都市大学
委員	泉 政希	テレビ東京	〃	佐藤 浩	湘南工科大学
〃	小黒 久史	凸版印刷	〃	吉川 幹夫	日本大学
〃	小玉 周平	東京電機大学	〃	新高 谷	東邦大学
〃	白石 路雄	東邦大学	〃	高橋 時市	東京電機大学
〃	田中 敏光	名城大学	〃	向井 信彦	京都市大
〃	竹内 幸一	電気通信大			

(28) 立体メディア技術研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	掛谷 英紀	筑波大学	幹事	堤 公孝	NTT
副委員長	高木 康博	東京農工大学	〃	藤井 俊彰	名古屋大学
幹事	上原 伸一	AGC	〃	山本 健詞	徳島大学
〃	氏家 弘裕	東京情報デザイン専門職大学	〃	山本 裕紹	宇都宮大学
〃	圓藤 知博	長岡技術科学大学	委員	河北 真宏	大阪工業大学
〃	加納 正規	NHK	〃	河木 真治	NTTドコモ
〃	小池 崇文	法政大学	〃	高橋 秀也	大阪市立大学
〃	陶山 史朗	宇都宮大学	顧問	本田 捷夫	本田ひかり技研
〃	高田 英明	長崎大学	〃	奥井 誠人	情報通信研究機構

(29) アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	上田 哲三	パナソニックインダストリー	委員	中村 裕一郎	目白大学
副委員長	金藤 正直	法政大学	〃	難波 和秀	流通経済大学
幹事	山田 一人	法政大学	〃	末松 千尋	京都大学
幹事	石綿 宏	フレッジテクノロジー	〃	本田 新九郎	NTT
〃	都築 五明	01高知ブースター	〃	平田 貞代	芝浦工業大学
〃	善本 哲夫	立命館大学	〃	松本 修一	日本ケーブルラボ
委員	石井 正純	AZCA	〃	山本 忠幸	いちか総合研究所
〃	江藤 之学	一橋大学	〃	横山 孝文	撰南大学
〃	榎本 之雄	日本コンテンツオルガン	〃	Richard B. Dasher	Stanford University
〃	岡田 剛史	岡田工事部	顧問	加納 剛太	高知工科大学
〃	長内 厚	早稲田大学	〃	倉重 光宏	高知工科大学
〃	加賀 有津子	大阪大学	〃	富沢 治	高知工科大学
〃	春日 正男	作新学院大学	〃	平野 真	福知山公立大学
〃	片山 誠	住友電気工業	〃	樺澤 哲	大阪大学
〃	鈴木 祐司	次世代メディア研究所	特別委員	小川 紘一	東京大学
〃	田路 則子	法政大学	〃	Carlos Pazde Araujo	コロラド大学
〃	谷岡 健吉	ストーニーブルック大学			

(30) 年次大会実行委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	苗村健	東京大学	委員	田邊暁弘	N T T
幹事	笹出晋司	放送サービス高度化推進協会	〃	三橋政	N H K
〃	山下晋	N H K	〃	榎芳	T B S テレビ
〃	和泉智志	日本テレビ	〃	森川大	富山県立大
〃	上原伸一	A G C	〃	望月大	N H K
委員	河合吉彦	N H K	〃	小白池	三菱電機
〃	難波正和	N H K	〃	白石石	東邦大学
〃	樋口昌	N I M S	〃	石綿田	フレッジテクノロジー
〃	吉村哲二	秋田大学	〃	高田英	長崎大学
〃	杉山賢	成蹊大	〃	春山知	N T T ドコモ

(31) 冬季大会実行委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	境田慎一	N H K	委員	仲田樹広	日立国際電気
幹事	加藤晴久	KDDI 総合研究所	〃	安藤悠人	フジテレビ
〃	樋口晴彦	日立	〃	松崎敬文	N H K
〃	秋田純一	金沢大学	〃	荻谷光晴	神奈川大学
〃	坂東幸浩	N T T	〃	田良島周平	NTTコミュニケーションズ
委員	小林池崇文	法政大学	〃	横井謙太	東芝インフラシステムズ
〃	薄田哲哉	N H K	〃	岡市直人	N H K
〃	薄井武順	N H K	〃	石綿宏	フレッジテクノロジー
〃	武敦史	富士フイルム	〃	堤公孝	N T T
〃	濱住啓之	福井工業高等専門学校	〃	三ッ峰秀樹	N H K 財団

(32) 編集委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
編集長	谷口行信	東京理科大学	編集幹事	徳永将之	TVS REGZA
副委員長	河合吉彦	NHK	(企画担当)	中川孝之	NHK
〃	小池崇文	法政大学		田中靖久	NEC
編集幹事	相田沙織	山口大学		長沼昌哉	ソニー
(企画担当)	相田英樹	JVCケンウッド		中村友玄	大阪大学
	飯塚智政	総務省		藤田延玄	大阪電気通信大学
	為村希亨	テレビ東京		松山剛	パナソニックホールディングス
	内藤慎二	NHK		森山洋	東京工芸大学
	遠藤修晴	TBSテレビ		山田大	東京大学
	加藤久	テレビ朝日		吉田隼	日立
	金河智	KDDI総合研究所		渡邊人	NHK
	河保田彰	宇都宮大学	(海外文献部門)		埼玉工業大学
	熊谷香	富士フイルム	部門委員長	大野拓	NHK
	木谷焦	中央大学	部門副委員長	齋藤雄太	KDDI総合研究所
	小島敏	N三菱電機	部門委員	→大久保翔	KDDI総合研究所
	川清裕	フジテレビ		曾我部陽	NIT
	田功司	奈良先端大学院		三沢天龍	三菱電機
	繁浩厚	大阪大学		山本卓史	東芝インフラシステムズ
	白崎公丈	大葉大		涌波光喜	情報通信研究機構
	先健	NEC	(ニュース部門)		
	辰張	立学	部門委員長	中野信一	日本テレビ
	中	京都市大	部門副委員長	田保宏	帝京大
	堤	シヤ	部門委員	浜新丸	NEC
	寺	N		熊藤	NHK
		拓殖大		藤原	法政大

(33) 論文委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長 アドバイザー 幹事 委員	安藤慎吾 谷口行信 宮崎勝文 小池崇文 吉田大我 加藤晴久 大川裕司	湘南工科大学 東京理科大学 N H K 法政大学 N T T KDDI総合研究所 N H K	(英語論文編集委員会) 委員長 副委員長 " 員	安藤慎吾 加藤晴久 大川裕司 飯山晃 伊丹誠 井手一 太田淳 小川弘 掛谷紀 甲藤二 酒澤茂 佐々木久 西村仁 新田直 橋本真 長谷山美 羽鳥康 人見康 美濃導 村田英 山崎俊彦 Nam Ik Cho Alexander G. Hauptmann Benoit Huet Tae Kyoon Kim Jianquan Liu Chong-Wah Ngo Antonio Ortega Jong-Il Park Georges Quenot Stefan Rueger Ming-Hsuan Yang	湘南工科大学 KDDI総合研究所 N H K 滋賀大学 東京理科大学 名古屋大学 奈良先端大学院大学 北海道大学 筑波大学 早稲田大学 大阪工業大学 N H K KDDI総合研究所 武庫川女子大学 KDDI総合研究所 北海道大学 東北大学 ソニ 理化学研究所 山口大学 東京大学 Seoul National University Carnegie Mellon University E u r e c o m E T R I N E C City University of Hong Kong University of Southern California Hanyang University Laboratory of Informatics of Grenoble The Open University University of California Merced
(和文論文編集委員会) 委員長 副委員長 " 員	安藤慎吾 宮崎大我 吉田純一 秋田慎悟 朝倉伸一 上原充 大竹文 小池崇文 杉田純一 田中賢一 筒井弘裕 戸泉史 外山隆昌 永井篤志 中村志裕 羽鳥康俊 文仙正俊 本村玄一 山田一人 吉本早苗	湘南工科大学 N H K N T T 金沢大学 N H K A G C 横浜国立大学 法政大学 東京医療保健大学 長崎総合科学大学 北海道大学 N E C 宇都宮大学 N T T 静岡大学 東北大学 福岡大学 N H K 法政大学 広島大学			

(34) 選奨委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	苗村健	東京大学	委員	倉掛卓也	NHK
代表幹事	山下 誉行	NHK	〃	橋本 将隆	北海道大学
幹事	山谷 晴彦	東京理科大学	〃	池田 鍋田	北海道大学
〃	樋口 伸一	日 立	〃	石町 田	NHK
〃	上原 幸浩	ANGTC	〃	村原 澤松	山口大学
〃	坂東 晋司	NHT	〃	名手 久吾	新潟大学
〃	笹出 晴久	放送サービス高度化推進協会	〃	河合 吉彦	NHK
〃	加藤 晴久	KDDI総合研究所	〃	小池 崇文	東京工芸大学
〃	和泉 智志	NHK	〃	秋田 純一	パナソニックインダストリー
〃		法政大学	〃		筑波大学
〃		日本テレビ	〃		日本体育大学
〃		金沢大学	〃		

(35) 「技術振興賞」進歩開発賞選考専門部会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
部長	倉掛卓也	NHK	委員	村松正吾	新潟大学
代表幹事	笹出 晋	放送サービス高度化推進協会	〃	名手 久哲	東京工芸大学
幹事	山下 晴彦	NHK	〃	上田 哲英	パナソニックインダストリー
委員	樋口 誠靖	日本テレビ	〃	掛角 伊藤	筑波大学
〃	橋本 晴久	フジテレビ	〃	角野 史徹	日本体育大学
〃	加藤 純一	KDDI総合研究所	〃	天野 一樹	フジテレビ
〃	秋田 大貴	金沢大学	〃	我野 真慶	パイオニア
〃	白石 隆宏	キヤノン	〃	蝶野 一樹	NEC
〃	石町 賢司	東北大学	〃	相羽 浩之	JVCケンウッド
〃	小野 晋紀	NHK	〃	大西 清二	パナソニックコネク
〃	木村 亜紀	読 売	〃	土居 川	日本テレビ朝日
〃	齊藤 幸一	三菱電機	〃	長谷 正誠	日本テレビ朝日
〃	原 賢充	NHK	〃	佐藤 孝直	日本テレビ朝日

(36) 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
部長	橋本 靖	フジテレビ	委員	杉浦孝直	NHK
代表幹事	名手 久貴	東京工芸大	〃	谷知 仁志	読 売
幹事	坂東 幸浩	NHT	〃	近松 仁志	中京テレビ
委員	鈴村 幸文	テレビ朝日	〃	玉木 雅之	朝日放送テレビ
〃	小池 崇純	法政大学	〃	筒井 宏輝	名古屋テレビ
〃	丸山 良一	法 政	〃	杉野 太郎	毎日放送
〃	藤原 徹義	NHK	〃	下別府 昭之	RKB毎日放送
〃	藤田 和芳	日本テレビ朝日	〃	皆見 清景	テレビ大阪
〃	榎田 栄介	TBSテレビ	〃	天野 和之	テレビ愛知
〃	田中 圭洋	テレビ東京	〃	横山 正裕	関西テレビ
〃	岩尾 英彦	フジテレビ	〃	白井 裕賢	東海テレビ
〃	金城 信彦	NHK	〃	武宮 賢一	日 立
					国際電気
					NEC

